

新世紀エヴァンゲリオン
EVANGELION
鉄のメイデン

鋼鉄の ガールフレンド2nd

NEON GENESIS EVANGELION
the IRON MAIDEN 2nd

公式ビジュアルブック



ISBN4-04-707175-7

C0076 ¥1500E

定価：本体1500円(税別)

角川書店



9784047071759



1920076015007



©GAINAX/Project Eva. - テレビ東京
©2003 GAINAX
©BROCCOLI

NEON GENESIS
鋼鉄のガールフレンド2nd
EVANGELION
公式ビジュアルブック



Contents



Gallery	3
---------------	---

Character	17
碇シンジ	18
綾波レイ	19
惣流・アスカ・ラングレー	20
渚カヲル	21
鈴原トウジ、相田ケンスケ、洞木ヒカリ	22
葛城ミサト、赤木リツコ、加持リョウジ、碇ゲンドウ	23
碇ユイ、冬月コウゾウ、日向マコト、伊吹マヤ、青葉シゲル、 老教師、ペンペン、徳さん	24

Story Digest	25
序章 帰ってきたエヴァンゲリオン	26
第壹章 たのしい学園生活	27
第貳章 シンジと仲間たちの冒険	39
第参章 恋の駆け引き	48
第四章 カヲル君と演奏会	53
第五章 ふたりで迎える夜	55
第六章 大人たちの楽園	58
第七章 最後の戦い	62
最終章 また会う日まで	65
BADEND DIGEST	69

Backbone	71
箱根ウォーカー	72
イベント CG 原画集	78
攻略 DATA	88
アルバム補完 DATA	92
全 MAP DATA	94

Gallery





「エヴァポストカードブック」収録イラスト illustration 山口恭史



【エヴァポストカードブック】収録イラスト illustration たかなぎ優名



【エヴァポストアカードブック】収録イラスト Illustration 美樹本晴彦



『エヴァポストアカードブック』収録イラスト illustration ほよん♥ろっく



「新世紀エヴァンゲリオン 観劇のガールフレンド 2nd 完全解向白表」目き下るイラスト illustration 木本達朗



「コンプティーク6月号」(2003年5月10日発売) 本誌グラフィック illustration 西村伸一



ゲームス川崎俊イラスト



セガダイレクト用販促イラスト



ソフマップ用版イラスト



メッセサンオー用艦役イラスト



石丸竜気用版イラスト

PC 版ショップ特典イラスト



ゲームズ用版イラスト



ソフマップ用版イラスト



メッセサンオー用版イラスト

Character





[Character]

碇 シンジ



CV
緒方恵美

人を惹きつける魅力を持つ 心優しい少年

第3新東京市立第壘中学校に通う14歳の少年。6月6日生まれで血液型はA型。エヴァ初号機の専属パイロットとして選出される。人工進化研究所所長にしてネルフ最高司令官でもあるゲンドウを父に、科学者であるユイを母に持ち、家族3人で市内のコンフォート17マンションに住んでいる。ただし、普段からあまり家に寄り付かないゲンドウとの親子仲は冷え切っている模様。性格は内向的で大人しく、流されやすい。幼なじみのアスカとは相性がいいらしく、いつも一緒。ただそれはアスカに限った話ではなく、綾波やカヲルたちにも同じように言えることであり、彼に人を惹きつける魅力が備わっている証拠であろう。特技はチェロ。演奏会で見劣りしないほどの腕前ようだ。

EVANGELION 初号機

零号機に続き建造されたテストタイプ。パーソナルカラーは紫。頭頂部の角状突起や肩部装甲など零号機や武号機とは異なる外観の特徴を有している。





天真爛漫かつ好奇心旺盛な 美少女転校生

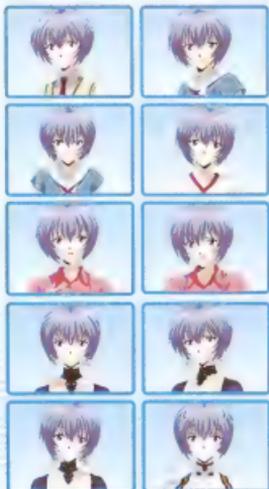
シンジたちが在籍する2年A組に転校してきた少女。エヴァ零号機の専属パイロット。両親はおらず、ひとり暮らし。しかし、それを感じさせないほど明るく物怖じしない性格。転校初日の朝からシンジとぶつかってしまい、ちょっとした誤解を生むが、そのあとのホームルームですぐに和解する。以後シンジたちと行動をともにするようになる。顔に似合わない姿に衣を着せぬもの言いをして周囲を驚かせることも。シンジに対しては、一緒にいる時間が多くなるにつれ、ゆっくりとその心を開いていく。また、自分の気持ちに対してとにかく正直で、その感情を包み隠すことなく、積極的な行動でアピールしてくる。そのため、ヤキモチを妬いたアスカと衝突することもしばしば。

EVANGELION 零号機

世界で最初に開発・建造されたエヴァで、実験機としての色合いが濃い。この機体が収集したデータを基に初号機、式号機等の機体が製作された。



綾波レイ



CV：林原めぐみ



[Character]

惣流・アスカ・ラングレー

声：宮村優子



いつも勝ち気なお節介焼きの幼なじみ

ドイツ系アメリカ人の父と日本人の母を両親に持つクォーターの少女。国籍はアメリカ。12月4日生まれで血液型はA型。エヴァ式号機の専属パイロットとして選出される。シンジとは幼なじみの関係であるが、それは母親であるキョウコが人工進化研究所に勤務しており、シンジの両親と近い関係にあったため。性格は明朗快活で、白黒はっきりさせたいタイプ。そのため、優柔不断で消極的なシンジに対しては、何かとお姉さん風を吹かせ、お節介を焼いてしまう。ただ、それはひとえに甘えたい本心の裏返しで、自分を引っ張ってくれない幼なじみに対するアテツケでもある。また、プライドが高く負けず嫌いなこともあって、転校早々、シンジにちょっかいを出してくる綾波に強い対抗意識を持っている。

EVANGELION 式号機

設計と部品製造は日本で、最終工程はドイツで行なわれた。局地戦用の特殊装備にも対応しており、初号機以上に汎用性が高まっている戦用用のエヴァ。



渚 カヲル

CV 石田 彰



TPO などお構いなし シンジを誘惑する美少年

線の細いカラダと色白な肌で中性的な印象を与える美少年。9月13日生まれ。血液型は不明。エヴァ伍号機の専属パイロットとして選出される。シンジのことがいたくお気に入り、時と場所を選ばず過剰なまでのスキンシップをはかってくる。その様子はアスカに耽美男というあだ名を付けられ、綾波からは Hentai と罵られ、あげくにヒカリからも不潔と言われてしまうほど。普段から同年代にはない大人びた言動と、つかみどころのない性格が相まって、クラスに転校してきたばかりの綾波とは別の意味で、周囲から微妙に浮いている。変わり者ではあるが、博識で物事への洞察力と探究心に優れた学者肌。また、芸術や音楽にも興味を持ち、自らバイオリンを弾くなど、多芸な一面も見える。

EVANGELION 伍号機

零から四号機までの機体とは異なり、収納式の大翼を持ち、飛行能力を有している。また S2 機関を内蔵しているため、その活動時間は事実上、無限である。





鈴原トウジ

CV：関智一



相田ケンスケ

CV：岩永哲哉



洞木ヒカリ

CV：岩男潤子



自称硬派の熱血漢

シンジの親友。クラスでは、ケンスケと合わせて3馬鹿トリオと呼ばれている。12月26日生まれて血液型はB型。エヴァ参考機の専属パイロットとして選出される。家族は祖父と父それに妹を加えた4人。性格はさっぱりしており、ウジウジとしたことが大嫌いな熱血漢。ただし、女の子のこことなると話は別。終始、鼻の下を伸ばしながらデレデレしている。大阪弁で話し、常に着ているジャージがトレードマーク。



熱狂的な軍事オタク

シンジの親友。9月12日生まれで血液型はA型。エヴァ四号機の専属パイロットとして選出される。だが、四号機が起動実験中に消滅してしまったため、以後は予備パイロットとなる。家族は父親のみ。好奇心旺盛で人見知りしない性格。趣味はサバイバルゲームを含むミリタリー全般とビデオカメラでの撮影。また、何かと問題の起こるシンジたちグループのまとめ役でもある。アスカにほのかな恋心を抱いている。



恋する学級委員長

シンジの同級生。2月18日生まれでAB型。クラス委員を務めていることもあり、男子生徒たちからは委員長というあだ名で呼ばれている。真面目でしっかりした性格の持ち主で、家では母親代わりとして姉や妹の面倒を見ている。そのため、家事全般を得意としており、恋人的な存在であるトウジの世話を焼いたりもしている。また、トウジとの関係は至って良好で、そのアツアツぶりは、親友のアスカも羨ましがれるほど。

葛城ミサト

CV：三石琴乃



美人で頼れるお姉さん

シンジたちが在籍する2年A組のクラス担任。12月8日生まれで血液型はA型。人工進化研究所とネルフにも所属しており、ネルフ内においては、戦術作戦部作戦局第一課に勤務。作戦本部長として作戦の立案および指揮を担当している。ちなみに階級は一尉。美人で独身、しかも明るく大らかな性格。加えて、姉御肌で面倒見もいため、男子生徒の間では非常に人気がある。また、恋人は車と言いつけるほどのカーマニア。

赤木リツコ

CV：山口由里子



クールな保健医

シンジたちの通う第音中学校の保健医。11月21日生まれで血液型はB型。ネルフ本部技術開発部技術局一課に所属する科学者でもある。ミサトと加持とは、学生時代の同期で旧知の間柄。性格は理知的でクール。物事を型に当てはめて考える癖がある。学校ではシンジたちエヴァパイロットの健康状態の管理やカウンセリングを担当したりとなにかと忙しい。また、グンドウに密かな想いを寄せている。

加持リョウジ

CV：山寺宏一



自由奔放な色男

ネルフの特殊監察部に所属するエージェント。元恋人であるミサトとは、別れた今も微妙な関係が続いている。趣味はスイカ栽培で、ネルフ施設内に自分の畑を持っている。

碓 ゲンドウ

CV：立木文彦



寡黙な司令官

ネルフの最高司令官。旧姓は六分儀。学生時代から交際していた碓ユイと結婚し姓を改めた。性格は寡黙で不器用。家でも息子であるシンジとの会話は、ほとんどない。



優秀な科学者

シンジの母親で、人工進化研究所に勤務。優秀な科学者としてエヴァ建造計画である、E計画に尽力した。ゲンドウと違い、シンジとの親子仲はそれほど悪くない。



冷静沈着な参謀

特務機関ネルフのNo.2。ゲンドウの妻であるユイは、彼が大学で教鞭を執っていた頃の教え子。趣味は将棋で、近々開催されるアマの大会に出場予定。



ミサトの副官

ネルフ中央作戦司令部作戦局第一課所属のオペレーター。ひとつのことに集中すると周りが見えなくなる性格。好意を寄せているミサトのことを何かと気にかけている。



技術局のNo.2

ネルフ本部技術局一課所属のオペレーター。性格は真面目で素直。主にエヴァに関するデータ収集リットコを担当。上司であるリットコのことを敬愛している。



情報分析のプロ

ネルフ本部中央作戦室付のオペレーター。階級はマコトやマヤと同じ二尉。通信情報分析を担当している。趣味はギターを弾くこと。また、音楽全般に関する造詣も深い。



優しい副担任

シンジたちの2年A組の副担任。通称、根府川の先生。性格は誠実にして温厚。生徒のことを常に気にかけている。よく図書館に通っており、教育熱心な教師。



元レギュラー？

新種の温泉ペンギン。ユ★ザワヤの屋上で開催されている「温泉ペンギンフェア」に出演中。お風呂とビールが大好き。シンジたちにペンギン語を適当に翻訳されて怒る。



名物マスター

新吉祥寺にあるビッグアップル・ダイナーのマスター。本姓は徳永さん。商売気が薄く、店をほったらかしにしてよく街中を散歩している。ユーモアのある気さくなおじさん。



Story Digest



『新世紀エヴァンゲリオン
鋼鉄のガールフレンド2nd
完全解説図表』表紙イラスト
illustration 鶴巻和哉



鋼鉄の ガールフレンド 2nd

NEON GENESIS EVANGELION
the IRON MAIDEN 2nd

STORY DIGEST

序章

帰ってきたエヴァンゲリオン

麗香・湖尻咲・園道

ふたりの乗り自転車に乗るシンジとアスカ。
アスカ「見ないでよ」
シンジ「見てないよ」
アスカ「見てる！ 絶対見てる！」
シンジ「仕方ないよ、僕が後ろなんだから！」
アスカ「やっぱり見てる！」
シンジ「じゃあ、僕が前に乗る！」
アスカ「アタにハンドル握らせたら、湖に落ちちゃうわよ！」

横から加持の車が近づく。

加持「よお！ ふたりとも仲がいいじゃないか」

シンジ「加持さん、カッコいい！」
加持「ありがとう、君たちも似合っているよ」
アスカ「話がしたいの、次のレストランで待ってて！」

加持「わるいな、これから研究所で急ぎの用事だ。」

走り去る加持の車。

アスカ「シンジ追っかけて！ 加速装置！」
シンジ「無理だよ、お尻が痛くなってきた」
アスカ「お尻痛うな！」

弊ノ瀧キャンプ村

アスカの声「タオルは？」
シンジ「右上の棚に置いてあるよ」
シンジ「なんだろう、山向こうに大きな光が見える」
アスカの声「何が見えるって？」
シンジ「人の形をした光……」

シンジの自宅・房間

シンジ「僕がこれを着ること、どう思うの？」
ユイ「私たちの未来がどうなるのか、誰にもわからないわ。このスーツは将来への希望なの」
シンジ「僕は何に乗るの？」
ユイ「人間に乗るのよ」
シンジ「人間？」
ユイ「その昔、コンピュータが建物を埋め尽くしたように、私たちの作る人間はとて大きいの」

シンジ「人造人間エヴァンゲリオン……」



絶対見てる！

見てる！



なんだろう、
山向こうに
大きな光が見える



人間に乗るのよ

僕は何に乗るの？



遅刻しちゃうよ！
起きろ！



うわあああああああ！



鈴原隊員の
追跡に向かう
であります！

間
に合わない！



パンツのぞき魔！

第壹章 たのしい学園生活

シンジの自宅・シンジの部屋

朝。制服姿のアスカがベッドに腰掛けて、眠りかけているシンジの顔をのぞき込み、大声で叫ぶ。

アスカ「遅刻しちゃうよ！ 起きろ！」
シンジ「うーん……自転車で走りすぎた……全身筋肉痛……」
アスカ「とっとと着替える！ ダッシュ！」

第3新東京市・大通り

駆け足で登校するアスカ。雑沓中のビルやマンションを見回すふたり。

アスカ「あのビル、また大きくなって」
シンジ「人口が増えているんだ。マンションや何地も目立ってきたし、研究所の職員も増えているって」

そこにトウジとケンスケが駆け足で来る。
トウジ「オッス！」
シンジ「トウジ！」
ケンスケ「ビュウウウウウ！ パリパリパリ！ ドッカアアアアン！」
シンジ「ケンスケ！」
トウジ「センセも朝から女連れったあ、アツイ！ 熱い！」

アスカ「トウジはデリカシーがないから！ 彼女とうまくいかないんじゃない？」
トウジ「きっ！ こいつワシのことナメとるぞ！」

アスカ「潤木さんからいろいろ聞いたんだけど、もんねー、トウジのこと」

アスカの言葉にトウジが耳を押さえて逃げ出す。

トウジ「うわあああああああ！」
ケンスケ「トウジ！ 待ってよ！ それでは相田透兵衛！ 鈴原隊員の追跡に向かうであります！」

栗岡の進学路

綾波が大あわてで走っている。口にはトーストをくわえたまま。

綾波「間に合わない！」

十字路

無りに焦っていた綾波。前方不注意で出合い頭にごつかってしまう。ふたりとも尻餅をつけて倒れる。

シンジ「痛っ……」

綾波「いててっ、あっ」

慌ててスカートの中身を踏す綾波。シンジをキッと睨んで

綾波「見たでしょ！」

シンジ「え、見てません……」

綾波「パンツのぞき魔！」

シンジ「そんなこと言われても」

綾波「わあっ！ 8時16分！」

綾波「ごめんなさい急いでいるの！ ホントごめんね！」

走り去っていく綾波。それを呆然と見送るシンジ。

シンジ「ふしぎ少女……？」

第9中学校・下駄箱

アスカがシンジの靴元を手をやり、襟を正す。
アスカ「ワイシャツの襟、乱れてるよ」
シンジ「さっき転んだから、しいって」
アスカ「こういう気遣いは、私が一番なの」

第9中学校・音楽室

シンジが音楽室に入るとカヲルが登場、華麗に譜面を背負って迫ってくる。
カヲル「友情という名の音楽が咲き乱れる」
シンジ「カヲル君！ こうして出会えるなんて夢みたいだ」
カヲル「喜びを分かち合える朋友との再会。一輪の音楽は誓いを極めた装飾にも務る」

第9中学校・2年A組教室

朝のホームルーム、委員長のヒカリの声が響きわたる。
ヒカリ「起立。礼。音楽」
ミサト「みなさん！ おはようございます」
一同「おはようございます」
ミサト「くっ、なんだか、もの凄く久しぶりに感じるわ」
トウジ「ミサト先生！」
ミサト「ハイ！ トウジ君！」
トウジ「転校生が来てるんですか？」
ミサト「よくぞ聞いてくれました！ 今度の転校生は史上最強よんか」
シンジ「史上最強？ マッチョなのかも」
ミサト「史上最強と聞いて騒がしくなる教室。ミサト「お静かに！」

教室の扉が開く。

名教師「葛城先生」
ミサト「榎府川の先生、ご無沙汰しております」
名教師「転校されて来た、この子連れてまいりました」
ミサト「今日はみなさんに、新しいお友達を紹介します」

綾波「初めまして、綾波レイです」
男子一同「おおおおおおおお！」
綾波「あーっ！ 今朝のパンツのぞき魔！」
シンジ「違うよ！」
アスカ「ちょっとアンタあやまんなんだよ！」
綾波「なんですか？ いきなり」
アスカ「シンジがアンタのせいで大怪我しちゃったんだから！」
シンジ「あ、ちょっと、ぶつけただけだよ」
綾波「ごめんなさい、大丈夫？」
アスカ「なんなら治療費の代わりに、その制服をくださいっやおうかぬえ」
綾波「なんか、かばっちゃったりしてさ、いやらしい感じ！」
アスカ「なんでですって？」
綾波「おふたりとも特別な関係なんじゃない？」
ゲンスケ「シンジとアスカは夫婦愛子コンビなのさ！」
一同「おおおおおおおお！」
シンジ&アスカ「違います！」
シンジ（モノローグ）「みんなに冷やかされて恥ずかしかった」

さっき、**転**んだから、
しいって



今日はみなさんに、
新しいお友達を
紹介します





私ね、シンジ君の
お父さん好きなの



なあシンジよう、女の胸、
触ったことあるか？

私たちは選ばれた
パイロットなのよ



真尋中学校・保健室

保健室を訪れると、リツコが待っている。
リツコ「転校生ね」
シンジ「……」
リツコ「シンジ君はその女の子のこと、気になる？」
シンジ「それほどでも……ふつうです」
リツコ「普通か……」
シンジ「あの……」
リツコ「夜更かしはするほう？」
シンジ「あまり……」
リツコ「普通ね？」
シンジ「はい……ふつうです。え……」
リツコ「ジュースは飲みますか？ 炭酸入りの」
シンジ「ときどき……」
リツコ「時々、か……」
シンジ「研究ってどんなことするんですか？」
リツコ「大丈夫よ、シンジ君の体は柔らかい方だから」
シンジ「あの……」
リツコ「お父さん、すてきな人ね」
シンジ「研究所で会いますか？」
リツコ「いつも一緒よ」
シンジ「……」
リツコ「私ね、シンジ君のお父さん好きなの」
シンジ「……」
リツコ「ショックだった？」
シンジ「そんなこと……」
リツコ「尊敬しているって意味よ」

真尋中学校・校庭

鉄棒のそば、トウジの視線は一点に釘づけ。
トウジ「ほら見てみい、あそこ」
シンジ「どこ？」
ケンスケ「トウジはすぐ女子の方ばかり見る」
トウジ「転校生が寝てるやろ」
トウジ「むっちゃ産れてるで、胸」
シンジ「綾波レイ」
ケンスケ「そやって女のことばかり、あーやだやだ」
ヒカリの声「綾波さん、こっちよ！」
綾波の声「はい！」
声の方に駆けていく綾波。
トウジ「なあシンジよう、女の胸、触ったことあるか？」
シンジ「えっ？」
ケンスケ「アスカの胸、どうだった？」
シンジ「やめてよ、そんなことしないってば。……トウジはどうなの？」
トウジ「俺は無い！」
ケンスケ「威張っていうことか？」
トウジ「俺はあの胸の重さを、柔らかい感触を、暖かい肌を、この手のひらで受け止めてみたいんじゃ……実存主義でありたいんじゃ！」
体操服姿のアスカが現れる。
アスカ「ハイ！ 保健室に呼ばれた人は？」
シンジ「さっき行ってきた」
トウジ「身体検査とカウンセリングやろ。ワシも呼ばれたわ」
ケンスケ「え！ なになに？」
アスカ「私たちは選ばれたパイロットなのよ」
ケンスケ「ボクちゃん、保健室に呼ばれてない！ なんで仲間はずれなの！」

第巻中学校・テニスコート裏

カヲル「選ばれし者の憂鬱か」
シンジ「カヲル君、そんなところにいると毛虫に刺されるよ」
カヲル「シンジ君、放課後、研究所へ行くんだらう？」
シンジ「うん……」
カヲル「僕も行くよ」
シンジ「呼ばれたの？」
カヲル「良かったらふたりで行きたいな」

第巻中学校・プール裏

綾波「教えて」
シンジ「え？」
綾波「彼君のお父さん、研究所の偉い人でしょう？」
シンジ「そうだけど」
綾波「人間を作っているの？」
シンジ「父さんとは話さないから」
綾波「知らないんだ」
シンジ「……」
綾波「ま、いいけど」
シンジ「あの……他の人に聞いてみるといいよ、僕はよく知らないし」
綾波「そうかもね」
シンジ「僕は教室へ戻るから」



良かったら
ふたりで行きたいな



教えて
彼君のお父さん、
研究所の
偉い人でしょう？

CASE of アスカ

【アスカと行く】

菓子パンのカド康

アスカ「やっど、私の出番が来たようね」
シンジ「アスカ、ここにいたんだ」
アスカ「ぷわっ！」
シンジ「わっ！ 食べカス！」
アスカ「ぷわっ！ ぷわっ！」
シンジ「やめてよ！」
アスカ「炎天下の中、か弱き美少女を待たせておいて！」
シンジ「ごめん」
アスカ「早くしないと間に合わないよ」
シンジ「まだ時間たっぷりあるのに」
アスカ「ユ★ザワヤの屋上に行きたいんだってば！」

ユ★ザワヤ・屋上

シンジ「ペンペンがいっぱいいる」
アスカ「温泉ペンギンって、パイオ関係なのかしら。かわいい」
ペンペン「そんなにみるんじゃねえよ」
アスカ「なんか喋っているみたい……」
シンジ「そうだペンギン語を翻訳してみよう」
ペンペン「おい！ おれはもともとレギュラーなんだよ！」
シンジ「ほくはアスカにあえてうれしいです」
ペンペン「はやくここからだせ！」
シンジ「お魚が食べたいです」
アスカ「生イワシがいいかな？」
ペンペン「ここからだしてくれ！ たのむよ！ おれたちはなまじゃないか！」
アスカ「そろそろ行こうか」
シンジ「うん……」
ペンペン「わー！ アスカ！ シンジ！ まってくれ！」

CASE of アスカ

ぷわっ！
ぷわっ！



やっど、
私の出番が来たようね



おれはもともと
レギュラーなんだよ！

CASE of 綾波

シンジは私のモノ。

触らないでちょうだい



終わったら返す!



ごめん

カラダ
くっついて
いるんだ
けれど

どうかな?
私の
プラグスーツ



シンジ君のそばがいい

CASE of 綾波

【綾波と行く】

第2 新中学校・廊下

放課後、帰ろうとするシンジを引き止める綾波。どうやら研究所までの道を案内して欲しいようだ。

シンジ「僕みたいな道案内でもいいの?」

綾波「仕事だから」

シンジ「仕事……」

綾波「そう、仕事」

荒々しく扉が開かれ、アスカ登場。早速綾波に食ってかかる。

アスカ「シンジは私のモノ。触らないでちょうだい」

綾波「仕事だから仕方ないでしょ。それにシンジ君は物じゃありません」

アスカ「ムカッ! 絶対ダメ!」

綾波「終わったら返す!」

そう言って、綾波はまんまとシンジを連れ去ってしまう。

アスカ「こんちくしょう、覚えてやがれ!」

第3 新東京環状線・車内

研究所に向かうふたりの。だが、混雑している車内でぎゅうぎゅう詰め。

綾波「カラダくっついてるんだけれど」

シンジ「ごめん」

綾波「あと、どれくらい?」

シンジ「もうすぐ着くよ」

綾波「混んでいる電車、嫌い」

シンジ「ごめんね」

綾波「触らないで」

シンジ「う、ごめん……」

綾波「車窓から高層ビルが見える。第3新東京市。どこが懐かしい街……」

人工進化研究所・自動販売機コーナー

自動販売機コーナーで一層づいているシンジのもとに、綾波が現れる。

シンジ「綾波」

綾波「どうかな?」

シンジ「え?」

綾波「私のプラグスーツ」

シンジ「似合ってるよ」

綾波「そう。まあ、こんなもんかな」

シンジ「うれしい?」

綾波「まあね、でも仕事だから」

シンジ「ふーん……」

綾波「あんまり見るな」

シンジ「じゃ、見ない」

綾波「この建物の中を探検してみたい」

シンジ「僕は自動販売機コーナーに行ってるから、綾波は好きに見学すればいいよ」

そのまま、シンジの隣へと座る綾波。

シンジ「探検はやめたの?」

綾波「道がわからない」

シンジ「まだ時間あるよ、行ってくれば」

綾波「もういいの」

シンジ「綾波って変わってるね」

綾波「シンジ君のそばがいい」

シンジ「これから行くところは、何もかもが大きいんだ。潰されないように注意してよ」

綾波「菜腸よ!」

CASE of カヲル

【カヲル君と行く】

第零中学校・プール裏

水着姿の女子がグラウンドに水をまいている。それを逆生の上、覗こりながら眺めるカヲル。胸でシンジは赤面してしまう。

カヲル「エロスとは生の本能。偉人の自己保存および生殖に役立つ衝動。激しい肉体的欲求。性愛……」

シンジ「なんだか恥ずかしい気持ちになるよ」
カヲル「校庭に立つ水着の少女。感じるものはあるかい？」

シンジ「なんとなく、いやらしい感じ……」

カヲル「人はその衝動で生命の糸を紡いで来た」

シンジ「うん……」

カヲル「カラダの中に流れている人間の血さ」

ヤマノ楽器・店内

バイオリンやヴィオラ、チェロやコントラバスといった弦楽器が展示された店内で、チェロに触れるシンジ。

シンジ「いい楽器だね。僕には勿体ない」

カヲル「第3新東京市公会堂で行なわれる定期演奏会。ふたりで二重奏を奏でよう。僕がバイオリンで、シンジ君はチェロ」

シンジ「僕なんかダメだよ」

カヲル「シンジ君と演奏したい」

シンジ「でも……」

カヲル「こういう話を知っているかい？ ピアニストは自分自身のピアノに惚れずにはいられなくなる」

シンジ「チェロは、ピアノとは違うよ……」

カヲル「楽器の演奏は感情表現さ」

シンジ「え？」

カヲル「人は誰でも、感情を全て、表に出す時がやってくる」

シンジ「演奏会の二重奏が……」

シンジ（モノローグ）「カヲル君の誘いに応えるべきか……演奏会の舞台に立って、僕のチェロを聴かせるなんて……」

人工進化研究所・男子ロッカールーム

ブラグスーツを着込むシンジ。

シンジ（モノローグ）「ブラグスーツの素材って、濡くて裸と変わらない……」

シンジとカヲル、等身大の鏡に全身を映す。後ろからシンジの肩を抱くカヲル。

シンジ「カッコイイかも……カヲル君も似合っているよ」

カヲル「僕はずっとこの時を待っていたよ」

そう言って、シンジを抱く力を強くするカヲル。

カヲル「人造人麗エヴァンゲリオン」

シンジ「そんなに強く抱きしめたら西しよ」

カヲル「さあ行こう。天使の眠る洞窟へ」

CASE of カヲル



楽器の演奏は感情表現さ





お友達は
揃いましたか？



楽しみだね……



耳が痛い……

人工進化研究所・インクライン地上駅

ミサト「はい、みなさん。隣の席を見て下さい。お友達は揃いましたか？」

一同「はーい！」

ミサト「前方安全確認。出発進行」

シンジ「わ、落ちていく」

綾波「びっくりしてやんの」

トウジ「こんなに乗るの、初めてやなあ」

アスカ「降りる速度が速い」

カヲル「これから起こりうる事象に興味をそそられるよ」

ミサト「本日はゲヒルン・インクラインをご利用頂きまして、誠に有り難うございます。地下900メートル。ジオフロントまでの所要時間は5分でございます」

窓いっぱいにはジオフロントの風景が広がる。

ケンスケ「うわっ！ 凄いや！ 凄すぎる！」

トウジ「森と湖。モノレールと自動車道路、

どえらい贅沢な基地やな

アスカ「どう？ これがジオフロントよ」

シンジ「アスカ、得意げだね。」

綾波「ジオフロント……メモモト」

カヲル「人は開拓者精神に満ち溢れている」

ミサト「地面の直径は6キロメートル。空洞の高さが約1キロ。地上で何か起きたら、みんなここへ移住するのよ」

モニタに、伊吹マヤの顔が映る。

マヤ「ネルフへようこそ。これから皆さんはネルフ本部、地下のケイジまで来ていただきます。与圧室を通過後、乗組者は突如に接触。

見聞終了後、試験的な搭乗を行ないます。乗組者名簿。零号機、綾波レイ。初号機、碇シンジ。先号機、惣流・アスカ・ラングレー。

参号機、鈴原トウジ。伍号機、渚カヲル。尚、四号機は事故後消滅のため、相田ケンスケは待機。ケイジ内は安全第一で行動して下さい」

ケンスケ「とほほ、俺は準備かよ」

ネルフ本部・開発部ドック・与圧室

シンジ「耳が痛い……」

アスカ「壊れそう……」

トウジ「おう、こわ！」

ケンスケ「エアロック？」

カヲル「楽しみだね……」

綾波「ドア外れそう……」

ネルフ本部・エヴァンゲリオンケイジ

シンジ「なんて大きかった。これが大人達を夢中にさせる物の正体か……」

リツコ「15機揃うと、神の存在を実感できるわね」

シンジ「ロボットのような物は生きているんですか？」

リツコ「知りたい？ 秘密よ」

シンジ「人造人間エヴァンゲリオン……」

リツコ「私にとってエヴァは良い思い出。シンジ君のお父さんと過ごした時間」

シンジ「リツコさん、楽しそうですね」

リツコ「夢中で駆け抜けていった。そんな感じかな」

マヤ「赤木博士、コンソールまでお越し下さい」

リツコ「シンジ君、またね」

シンジ「口紅の匂い……」

これが大人達を

夢中にさせる物の正体か……



エントリープラグ内

シンジ「結構カッコイイかも」

CASE of アスカ
【アスカと行く】

アスカからの通信が入る。

アスカ「シンジ！」

シンジ「アスカ、なに？」

アスカ「あとでお楽しみがあるんだけど」

シンジ「うん」

アスカとの通信が切れる。

ネルフ本部・武号機ケイジ

カメラを持ち出して、シンジに突きつけるアスカ。

アスカ「ねえ、記念撮影！」

シンジ「ケンスケのカメラ……いつの間に」

アスカ「アスカの魅力全開！ で撮ってね」

カメラのシャッター音。写真に収まったアスカと武号機。

アスカ「見せて、アスカの生写真。ふーん……

なんだか物足りないわね」

シンジ「行こうよ、見つかったら大変だから」

アスカ「待って」

シンジ「プラグスーツ脱いじゃうの！？」

アスカ「樂って！」

シンジ「えーっ？」

アスカ「冷たいんだから早くしてよ！」

アスカ「見せて！ お！ いい感じ。美女と野獣」

シンジ「アスカ、胸をしまった方が……」

ネルフ本部・食堂

食堂でくたびられているシンジとトウジ。対してケンスケは力が有り余る様子。

ケンスケ「もっと見学したい！ もう州の時間か。俺は予備パイロットだから暇なのよね〜」

シンジ「アスカにカメラ買ったの？」

ケンスケ「そうだよ」

シンジ「壊されても知らないよ」

ケンスケ「アスカって、意外とかわいいじゃん。頼まれたら断れないよな」

トウジ「ケンスケ、お前、物好きやな」

ケンスケ「アスカを俺にくれ」

シンジ&トウジ「えー？」

ケンスケ「ジョーク。取るわけねえよ、シンジの女だもんな」

シンジ「うーん……」

新吉祥寺サンロード・花壇の前

ラフな服装に驚愕したアスカ。手にはファーストフードのジュースとバーガー。

アスカ「ジャーン！」

シンジ「全部、煮替えちゃったんだね」

アスカ「運動した後はこれよ」

シンジ「運動って、クラブ活動かよ……」

アスカ「なに、ぶつぶつ言っているの」

シンジ「俺に学生服を押し込んだら、シワシワになっちゃうよ」

アスカ「平気です」

と啜ってジュースを飲む。

アスカ「あーうまい！」

CASE of アスカ



**アスカの魅力全開！
で撮ってね**



ジャーン！
運動した後はこれよ



かわいいでしょ？



なんだかすること
無くなつちやつた

これが本物の
女の子よ



CASE of 綾波



記念撮影

シャッター押して



シンジの自宅・展開

テレビのチャンネルをまわすアスカ。テレビの声「海は蒸発した。森林は焼き尽くされた。人類は地下へと移り住んでいった。残された水と空気は365日分だった。沖田は思った。あの星へ行こう」

テレビの女「耕作さん、私たちもうダメね」
テレビの男「貴子さん、希望を持つんだ」

テレビの女「貴方は初芝の課長、私は銀座の女」
テレビの外国人「今日は万能能干し年。PVセブンのご紹介です。古い年とはさようなら。宇宙素材チタン合金の採用により、敷き布団は3枚、掛け布団なら枚まで乾燥出来るのです」

テレビの男「俺は寝社会に復讐してやる」

テレビに飽きたアスカ。リモコンを置く。
アスカ「はあー、なんだかすること無くなつちやつた。ねえ、何してんの？」
シンジ「アドベンチャーゲーム……」
アスカ「面白いの？」

シンジ「いいから黙っていてよ」
アスカ「つまんない」

アスカ「ねえ、ねえ……」
シンジ「邪魔しないで」

アスカ「あー！ 画面に女の子なんか出しちゃって気持ちわるい！ うりゃ！」
シンジ「わあ！ なんでキーボード触るの？」

アスカ「うりゃ！」
シンジ「わあ！ セーブデータが……」

アスカ「私が教えてあげる。これが本物の女の子よ。」

シンジ「え……」
アスカ「どう？」

シンジ「うん……」
アスカ「あと6年もすると、シンジも大人になっちゃうのよね」

シンジ「だから？」
アスカ「大人になったら、こんな態ふざけ出来ないよね」

シンジ「くすくすしたいよ」
アスカ「14歳の男の子、ふっふっふっ」

シンジ「わー！ ダメ！ やめるってば！」
アスカ「オーッホッホッホッホッ！」

CASE of 綾波

[綾波と行く]

綾波からの連絡が入る。

綾波「錠君」

シンジ「綾波、どうしたの？」

綾波（無機）「後で話があるの、それだけ」

シンジ「何たろう……」

ネルフ本部・初号機ケイジ

綾波「記念撮影」

シンジ「そのために僕を呼んだの？」

綾波「そうよ」

シンジ「しかもケンスケのカメラだし……」

綾波「相田君、やさしいの」

シンジ「ケンスケの奴……ちょっと悔しいかも……」

綾波「シャッター押して」

シンジ「うん……」

第3 新東京環境圏・人工進化研究所前編

シンジ「あの……」
綾波「なに？」
シンジ「うちの両親は研究所勤めで、帰りがいつも遅くて、僕は留守番ばかりしていた。綾波のうちはどうなの？」
綾波「ひとり暮らしだから」
シンジ「ひとり？ 両親は？」
綾波「聞いてどうするの？」
シンジ「ごめん……」
綾波「……」
シンジ「どういって、どう聞いたらいいか、わからなかったから」
綾波「いいよ……」
シンジ「聞いたの？」

綾波「錠君ってさあ」
シンジ「ん？」
綾波「アスカと仲いいよね」
シンジ「アスカとは幼なじみで、一緒に良く遊んだから」
綾波「そう」
シンジ「アスカのお母さんも研究所勤めで忙しいんだよな」
綾波「……」
シンジ「ごめん……」
綾波「錠君」
シンジ「ん？」
綾波「私も夜ひとりだから遊ばない？」
シンジ「え……」
綾波「でも今夜はダメ。いつの日か、ふたりで出かけようよ」
シンジ「うん……」

第3 新東京環境圏・市内

アスカ「あら、お邪魔だったかしら？」
綾波「こんにちは、ラングレーさん」
アスカ「アスカよ、アスカ！」
アスカと綾波の間に激しく火花が散る。
アスカ「今日は楽しかったわね。なんか遊ばみたいだったし」
綾波「転校してきたばかりで電車の乗り方まで教わっちゃった」
シンジ「遊んでいて大変だった……」
アスカ「ふたりとも仲良しですこと」
綾波「仕事だからな」
シンジ「そうそう仕事。研究所のね……」
アスカ「よく言うわ」
綾波「それに錠君といると落ち着く」
シンジ「僕って悪し系」

小浜谷駅に到着。ホームに降りる綾波。
アスカ「ハッキリ言ってやる。アンタ、シンジのことが好きになったんでしょ」
綾波「錠君を好きに？ 絶対無い」
アスカ「ドキドキしているくせに」
綾波「ありえないモン！」
アスカ「恋が始まると、突き動かされるわよ。自分では止められないもの」
綾波「コラッ！ 錠！」
シンジ「え？」
綾波「モテるとかと思って調子に乗るなよ！」
シンジ「うん」
綾波「じゃあね、錠君」
シンジ「うん、また明日」



CASE of カヲル



僕たちの
友情を祝して



おやすみ、
シンジ君

CASE of カヲル
【カヲル君と行く】

カヲルからの通信が入る。
カヲル「シンジ君」
シンジ「カヲル君、どう？」
カヲル「悦楽の時を楽しんでいるよ」
シンジ「そう……」
カヲル「君と話がしたいな」
シンジ「うん……」
カヲル「外で待ってるよ」
カヲルの通信切れる。

ネルフ本部・伍号機ケイジ

ケイジ前、伍号機の顔の前で、カメラを持ち出すカヲル。
カヲル「ふたりで記念撮影だよ」
シンジ「伍号機の顔って恐い……」
カヲル「僕たちの友情を祝して」
シンジ「うん……」
フラッシュが焚かれる。
カヲル「印刷紙は思い出を美しいものに変えてくれる」

半水上新市・湖畔

湖沿近くのコンクリート桟橋の上に白いアップライト・ピアノ。カヲルはピアノの前に座り、シンジはその脇、何気なくカヲルの指が鍵盤に触れる。
カヲル「我思う、君に我在り……」
叩かれる鍵盤。Eの音が響く。

カヲル「僕は考える。この世界に存在を許された自分……」
次はG。

カヲル「死んだはずのロミオが起きあがる。聴衆は嬉しあい、オペラ座は奮動めきに包まれる」
シンジ「演劇の話？」
カヲルの指が鍵盤を叩く。Fの音。

カヲル「僕は亡霊かもしれないよ、どうする？」
シンジ「触ればわかるかも」
確かめるようにカヲルに触れるシンジ。
シンジ「大丈夫、カヲル君はここにいますよ」
カヲル「君は僕にとって最愛の友人だよ」
そういうとカヲルの指がCの鍵盤を叩く。

仙石原駅・改札口

仙石原駅の改札前にいるシンジとカヲル。後ろでは電車が駅を通り抜けている。願いはばい笑顔浮かべているカヲル。
カヲル「今日は楽しかったよ」
シンジ「うん……」
カヲル「おやすみ、シンジ君」
シンジ「おやすみなさい……じゃあ帰るね」
背を向けて歩き出すシンジ。ふと気になって振り返ると、通く改札からカヲルがこちらに向かって手を振っている。その笑顔にシンジの心が癒される。
シンジ「おやすみ、カヲル君……」
遠くでは電車が走っている。

シンジの自宅・シンジの部屋

夜。ベッドに横になっているシンジ。すると地震が起きる。地鳴りに目が覚め、あたりを見回す。

シンジ「地震だ……」

カーテンのすき間から光が差し込んでいるのに気づいたシンジ。立ち上がりカーテンを開ける。

シンジ「まぶしい……」

窓の向こう。そこでは人型のまぶしい光が山の向こうにそびえ立っている。

シンジ「人の形をした光だ」

上空をヘリコプターなどが飛び回っている。途端、人型の光が音をたてて消える。

シンジ「消えた」

シンジの自宅・居間

寝付けぬシンジは居間へ出てきてテレビをつける。話題はもっぱら人型の光のこと。レポーター「こちら現場です。東京に現れた光の巨人は、たった今、研究所の裏手の山へ消えました」

シンジ「研究所だ……」

心配になり、電話をかけてみるシンジ。

電話のアナウンス音声「ただいま回線が大変混雑しております。もうしばらくしてからお掛け下さい」

シンジ「研究所に電話が通じるわけないか……」

諦めて受話器を置くシンジ。



地震だ……



人の形をした
光だ

まぶしい……

たった今、
研究所の裏手の山へ消えました



研究所に
電話が通じるわけないか……

第2章

シンジと仲間たちの冒険

第10中学校・廊下

ほんやりと面下をうろつくシンジ。
シンジ「さて、次の授業はなんだったかな」
そのまま校庭の方へ向かう。

第10中学校・テニスコート裏

テニスコート裏に行くと、ケンスケに遭遇する。

ケンスケ「今日の体育はランニングだ。早く音楽室へ行って着替えてこいよ」

第10中学校・校庭

着替えて校庭に出ると、体操着に着替えた生徒たちが準備体操を済ませていた。その中で、綾波は新しい体操着がしっくりこない。
綾波「胸の辺りがキツイかな」
アスカ「初め頃はサイズだけは生臭いんだから。見て、このアスカ様には宝石のようなおみ足があるの。カラダはバランスが重要なよ」

綾波「私には天から授かった才能があるの」
アスカ「アクションは私が一番よ！ やるか、シュッ、シュッ、シュッ」
ヒカリ「臭を付けたいと、男子が臭っているよ」
アスカ「そうね、シンジは色ボケだし、鈴原も野暮むき出しで感じたい」

シンジ「アスカの体操着なんか、なんにも感じないよ。慣れちゃってるからね」

トウジ「そそそ、シンジ言うたれ。誰がアスカなんぞ男か、ボケ！」

アスカ「何ですって！」

激怒したアスカは反転。後ろ回り蹴りをシンジとトウジに見舞った。すっ飛ぶ男ふたり。
シンジ「うくっ！」

ヒカリ「鈴原君も碓君も欲望の虜だわ！」

倒れたシンジに、ここぞとばかりにカラルが猫背を背負って駆けつける。

カラル「愛するシンジ君に鉄槌が下るとは」
シンジ「カラル君」

カラル「こんな形で罪を償う君を、僕は見捨てはしない。濡かったかい？」

シンジ「思ったより濡は浅いよ」

カラル「黒曜石のように美しい瞳、愛している」
トウジ「おいおい、男同士で愛をかたっとなでえ」

アスカ「出たな、耽美男」

綾波「ヘンタイ」

ヒカリ「不潔よ、不潔！」

騒がしくなっていく中、ケンスケが登場。やたらテンションが高い。

ケンスケ「ハイ皆さん！ 今日のランニングはなんと！ 操縦者の適正訓練を兼ねているのです！」

燃え上がるケンスケ。

ケンスケ「とうとう俺の時代が来た！ 相田ケンスケこそエヴァのパイロットにふさわしい！ 絶対！ 絶対！ ゼーったい！」



胸の辺りがキツイかな



誰がアスカなんぞ見るか、ボケ！



カラル君

真ノ湖・遊歩道

前を走る女子。
 アスカ&ヒカリ&綾波「ファイト、ファイト、ファイト、ファイト……」
 シンジ「女子は元氣だな、全然諦めつかない」
 トウジ「カーッ、勿体ないッ!」
 ケンスケ「壁とトウジは見るとさっぱり、俺も好きだけど!」
 カヲル「異性に惹かれることは、生命の営みと見た」
 シンジ「カヲル君は女子に興味ない?」
 トウジ「聞くだけ、無駄無駄!」
 カヲル「むしろ乙女達の方から、僕に興味を見いだすよ」
 ケンスケ「よっしゃ! 潜カヲル君! 女子の群れに突っ込んでいこうぜ!」
 カヲル「興味がないな。綾波レイを除いては!」
 シンジ「カヲル君も帰業?」
 トウジ「シンジもカヲルも、転校生大好き少年やろう」
 カヲル「僕を利用して女子ゲットとは、フ……女子の集団に食いつけば、しいのかい?」
 ケンスケ「その通り! 絶対負けなぞ!」
 ケンスケ「ビュウウウウん! 飛びます! 飛びます!」
 トウジ「ワシかて! いてこましたる!」
 シンジ「わっ! 待ってよ!」

仙石原・ランニングコース

疲れて下を向くシンジ。
 シンジ「諦めつかない……」
 トウジが足踏みしながら、シンジをのそき込む。
 トウジ「センセ、もうみんな行ってしまて」
 シンジ「いきなり飛ばすから」
 トウジ「だらしないやっちゃなあ、男らしゅうせい!」
 シンジ「トウジは先に行っていていいよ、僕は歩いて行く」
 トウジ「なあ、顔色悪いぞ」
 シンジ「ホント?」
 トウジ「先生に知らせてくれるからな、マイペースで行けや」
 シンジ「うん、ありがとう」
 トウジ「ホッ、ホッ、ホッ、ホッ、ホッ」

砂列道をひとり歩くシンジ。弾の音がやけに遠く聞こえる。
 シンジ「僕ひとりか……このまま倒れたら、夕方のニュースに出るかな……アスカ、地球の平和をよろしく。……後は頼んだよ……」
 ミサト「シンジ君!」
 シンジ「助けに来てくれたのかな……目の前が真っ暗だ……」
 ミサト「シンジ君、大丈夫?」
 シンジの意識が薄れていく。

遊歩道の終幕

横たわっているハダカのシンジ。
 シンジ「水が冷たい……ハダカだ!」
 ミサトの声「心配の負担にならないように、手足に水かけてるからね」
 シンジ「ミサトさん」
 ミサト「気持ちいいでしょ?」
 シンジ「はい……」



女子は元氣だな、
全然諦めつかない



だらしない
やっちゃなあ。

男らしゅうせい!



アスカ、

地球の平和を
よろしく。



美人に、ハダカを見られた……



ハイ、こちらは
ラブ
バード

ミサト「嫌だけれど恥ずかしがらないでね、私こういうの慣れているから」
シンジ「見たんですか?」
ミサト「立派なものよ!」
シンジ「美人に、ハダカを見られた……」
ミサト「私の水筒なの、水飲んでね」

走行中のジープ

ミサトのジープ。シンジとアスカが同乗。
アスカ「これ、ミサトのクルマ?」
ミサト「そうよ、アスカやシンジ君を監視するためだね。息抜きも兼ねているけれど」
シンジ「ステキな車ですね」
ミサト「ありがと!」

常盤中学校・保健室

ミサトのジープで学校に戻ると、シンジは保健室へ、そこにトウジとケンスケが見舞いに現れる。

トウジ「具合はどうや!」
シンジ「うん、気分爽快!」
ケンスケ「俺の計画、聞いてくれよ」
シンジ「計画?」
トウジ「ケンスケのヤツ、湖の方をさがしてたらしいで」
ケンスケ「いいかい、ジオフロントの工事中に、幾つもの坑道が掘られている。パイロット・トンネルっていうんだけど、その内のひとつを発見したんだ。見つかったら抹殺されるくらいの超軍事機密さ!」
カーテンが覗いてリッコが顔を出す。
リッコ「危険な場所近づいてはダメよ」
トウジとケンスケ「はい!」



俺の計画、
聞いてくれよ



危険な場所に
近づいてはダメよ

ビッグアップル・ダイナー・店内

下校途中、ビッグアップル・ダイナーに寄る一同。ケンスケが演説中で喋る。
ケンスケ「我々チルドレンは、人工進化研究所の一員として、基地全体を把握することが重要なのであります!」
トウジ「ケンスケは軍事オタクやからなあ」
シンジ「行くとなれば今度の口糧日」
アスカ「遊園地にも飽きたしよ、蒸気浴もいいかもねッ」
綾波「私は出かける必要があるの?」
カヲル「右に同じく」
ケンスケ「ある! エヴァのパイロットだからだ!」

ケンスケ「第2番ゲート。工事中中で破壊された大型トンネル。ここから地下坑道へ入る」
シンジ「それって、便利になくなった病院とか、オーナーが消えたホテルとか、真つ暗な、お化けトンネルとか……」
トウジ「悪い悪い! 許すは好かん!」
ケンスケ「大丈夫だって。ジオフロントに繋がってるし照明が点いている。酸素濃度計も用意してあるから」
アスカ「毒ガス出るの?」
綾波「危険! そんなの中止!」
カヲル「右に同じく」
トウジ「そやそや! 中止! 中止!」
ケンスケ「毒ガスじゃないよ、酸素濃度!」
シンジ「せめてトンネルの入り口だけでも、見てみたいわ」



私は出かける必要あるの?

ある!

エヴァのパイロットだからだ!

芦ノ湖湖畔・第26番隧道・入り口

シンジ「樹木と岩とコケに覆われた、トンネルの入り口か」
 ケンスケ「これが第26番ゲートさ。トンネルにも『26』って書いてあるだろう？」
 トウジ「山の斜面はせまっとるし、湖から溜った空気が流れとるし……トンネルの中は暗闇かいな……」
 アスカ「曇で書いてあるよ。入れる？」
 綾波「壁のシミが人の顔……」
 カヲル「風の音が女の声……」
 トウジ「うわあ！ お前ら、肝試しすんな！」
 ケンスケ「壁は賛成してくれよな」
 シンジ「トンネルも、みんなで入れば、恐くない」
 トウジ「交通標誌かよ！」

シンジの自宅・シンジの部屋

アスカ、黄色のワンピースで着飾って、シンジに見せる。
 アスカ「こんな服、どうかなー」
 シンジ「阿婆探検なんだよ」
 アスカ「お出かけなんだから、派手な格好したいじゃない」
 シンジ「泥で汚れるし、雨水で濡れるし、棒に引っかけで破けるよ」
 アスカ「シンジは女の子の気持ち、全然わかってない」
 シンジ「だいたい誰に見せるの？ ケンスケ、トウジ？ カヲル君？」
 アスカ「もう、いじけちゃって子供なんだから」
 シンジ「嫌ななくていいの？ おうちで心配するよ」
 アスカ「べーっ、だ！」

芦ノ湖湖畔・第26番隧道・入り口

アスカは先日シンジに見せたワンピースを着ている。
 ケンスケ「これから行くところは長くて、深～い、洞窟なんだぜ」
 ケンスケ「岩が崩れてくるかも。地底湖で濡れるかも。野生の熊やタヌキに出くわすかも！」
 綾波「錠君、ほら軍手」
 シンジ「いいね軍手、よく似合うよ」
 綾波「あんまりうれしくない」
 アスカ「挑発的に俺なんか張り出しちゃってさ」
 トウジ「アスカ、ええやないか。お前が持つとらんもん。綾波が持つとるで!!」
 カヲル「森はいいねえ。涼しげな空気が肺を浄化してくれる」
 シンジ「これで全員、揃った」

第26番隧道・入り口

地下水の染み出したトンネル構内。
 シンジ「冷たい蒸気が肌にまとわりつく感じ」
 アスカ「寒い。冷房が入っているみたい」
 綾波「壁から水が染み出している」
 トウジ「暗闇から、なんか出てくるんちゃうか」
 カヲル「トンネル構造はしっかりしている」
 ケンスケ「極秘地帯によると、途中でいくつか道が分かれている。ガイドは俺と綾だ」
 シンジ「僕がガイド？」



こんな服、
どうかな？





アスカ「ガイドってなに？」

ケンスケ「遺案内で、俺と錠が分岐点の行き先を決める。はくればたら錠のグループは錠が誘導していくんだ」

第26 番隧道・坑内

幅5メートルほどの狭いトンネルで、弱い電灯が所々についている。ケンスケを先頭に一同が歩く。シンジたちは懐中電灯で足元を照らしている。奥まで続く洞窟を見、カラルが感嘆の声を上げる。

カラル「掘削した岩盤を支える構造物、まさに人類の英知だね」

シンジ「巨大なジオフロントを作るために、このトンネルを掘ったんだね」

ケンスケ「こういうトンネルが大小合わせて、4096本掘ってあるんだ」

シンジ「人間の力って凄い」

アスカ「もっと明るくならないの？ かわいいお洋服、見せたいのに」



第26 番隧道・坑内・300m地点

暗がりを見慣れ多く一瞬、その中でおっかなびっくり後ろを気にしつつ歩くトウジ。

トウジ「後ろから見られてる気がする」
シンジ「トウジらしくない、男は強く逞しくってね」

トウジ「気がする、言うだけやんか」

トンネル奥から空を缶が転がる音が、思わず立ち止まる一瞬。トウジにいたっては半狂乱状態だ。

トウジ「なんかおどろい」

目をすます一瞬。静寂が流る。

シンジ「何も、いない」

ケンスケ「上、見ない方がいいよ」

カラル「怪談で拝聴したことがある」

トウジ「やめっ！ そんな話」

綾波「恐くてお顔がスースーする」

トウジ「綾波はやさしいなあ」

アスカ「それを言うなら、背中に悪寒が走る、でしょ？」

トウジ「アスカは、きついなあ」

ケンスケ「トウジは前、錠は一瞬うしろ。探検隊員がはくれないように、注意して歩いてくれよ」

采れたように指示を出すケンスケ。

CASE of アスカ



CASE of アスカ

[アスカと行く]

歩いていると、アスカがこっそりとシンジに耳打ちする。

アスカ「シンジ」

シンジ「ん？」

アスカ「手をつなごう」

シンジ「どうしたの？」

アスカ「ぬ？ 手え、つなごう」

シンジ「あっ」

アスカ「さすは男の子、手が冷たい」

シンジ「地下では冷えるから、アスカの手は温かいね」

アスカ「デヘヘ、誰も気が付いてない」

シンジ「アスカ」

アスカ「なんか、ドキドキしてきちゃった」

CASE of 綾波

【綾波と行く】

シンジ「ケンスケ遅から遅れすぎた」
 綾波「まっすぐ歩けば良いのよ」
 シンジ「ふたりきりになって得した気分……」
 綾波「悪い体験を共有すると、ふたりの間に
 恋が身生えるんだって」
 シンジ「ふーん」
 綾波「寝着と恋が芽生えたら困っちゃうよね」
 シンジ「照れくさい話だね」
 アスカの声「シンジってば！ ちゃんと付い
 て来ている？」
 シンジ「いるよ！ 歩いている！」
 綾波「アスカってさあ……」
 シンジ「え？」
 綾波「僕の子は、アスカみたいなタイプ、い
 いのかな？」
 シンジ「人気はあるみたいだね」
 綾波「どうなの？ いつも一緒にじゃん」
 シンジ「僕とアスカは友達だから、女の子っ
 て悪意は無いと思う」
 綾波「そうか、ただの友達なんだ」
 シンジ「だから？」
 綾波「ま、いいじゃない」



CASE of カヲル

CASE of カヲル

【カヲル君と行く】

シンジ「人のうなり声みたい……」
 カヲル「探検とは危険を冒して実測の場所を
 調べること也」
 シンジ「この先には何があるんだろう」
 カヲル「シンジ君の機軸が面白い」
 シンジ「ありがとう、カヲル君も頑張だよ」
 カヲル「君の笑顔、草原の中のひまわりのよ
 うだ、」
 シンジ「……」
 カヲル「思わず抱きしめたくなる」
 シンジ「ダメだって、へんな気持ちになるか
 ら……」

君の笑顔、
草原の中の
ひまわりの
ようだ



縦坑・エレベーター入り口

ケンスケ「このエレベーターは定員2名」
 シンジ「ふたりずつ乗って、ジオフロントま
 で降りよう」
 ケンスケ「俺と綾は別々に乗ろう」
 シンジ「僕と一緒に乗るのは……」

CASE of アスカ

【アスカと乗る】

シンジ「思ったより深いね、」
 アスカ「目が痛い。気圧が変わっている」
 シンジ「それだけ深く潜っている」
 アスカ「怖い」
 シンジ「我慢」
 アスカ「我慢よ」
 シンジ「我慢、我慢」
 アスカ「忍いの！」
 シンジ「訓練だと思って乗れば」
 アスカ「女の子が恐いって言ったら、なんか





CASE of アスカ



私はいつでも本気よ……

CASE of 綾波



わっ、抱きつかれた

やつ、**恐い!**

CASE of カヲル



僕からの友情の証……

いいもんだろう?

することあるでしょ」
シンジ「すること? 女の子とすること……」
アスカ「変なこと想像している」
シンジ「どうかね」
おもむろに肩を抱くシンジ。突然のことに一瞬びっくりするアスカ。
アスカ「きゃっ」
シンジ「こういうこと?」
アスカ「抱かれたら安心した」
シンジ「アスカはどこまで本気なのか、この僕にもわからない」
アスカ「私はいつでも本気よ……」
アスカが小さく泣く。

CASE of 綾波

【綾波と乗る】

エレベーターにふたりきり。周囲を気にしている綾波。
綾波「途中でロープが切れて、900メートル下まで……なんてこと、ありえる?」
シンジ「エレベーターの仕組みはよく解らないけれど……どこまで降りるのかな?」
綾波「これって、姫君所有のエレベーターなんですよ?」
シンジ「父さんが研究所勤め、ってただけよ、綾波「やっ、恐い!」
思わずシンジに抱きついてしまう綾波。シンジも突然のことに驚く。
シンジ「わっ、抱きつかれた」
綾波「揺れてるよ、エレベーター」
シンジ「揺れるよ、工事用だから」
綾波「もう!」
シンジ「胸が苦しい……」
綾波「私もよ……」
シンジ「意外と腕力があるね、体つきがたくましいのかも」
綾波「恐いんだもん、どうせ誰も見てないよ」
シンジ(モノローグ)「綾波の体温を感じながら、僕は降下していく」
綾波「好きとかキライとか、そういうんじゃないからね」
シンジ「えっ、そうなの?」
シンジ、ちょっと残念そう。

CASE of カヲル

【カヲル君と乗る】

エレベーターにふたりきり。エレベーターに興味を示すカヲル。
カヲル「前時代的な昇降装置だね」
シンジ「工事用のエレベーターだから」
カヲル「地球の中に進んでいる」
シンジ「盛大な気持ちになるね」
カヲル「目を瞑って」
シンジ「え?」
カヲル「目を閉じるんだ、シンジ君」
シンジ「うん……瞑ったよ」
目を瞑るシンジの唇に唇を寄せて、軽く口づけをするカヲル。
カヲル「僕からの友情の証……いいもんだろう?」
シンジ「不覚にも感じてしまった……」

CASE of トウジ

【トウジと乗る】

トウジ「お前、綾波とアスカ、どっち取んねん」
シンジ「取るって、取らないよ。いつも通りで楽しいし」
トウジ「アスカやな、シンジはよお！」
シンジ「アスカとの付き合いは長いし、いい友達だけれど……なんだよ、トウジは綾波に興味があるの？」
トウジ「綾波で、なんか大人やん」
シンジ「そうかなあ？」
トウジ「体型が平均より上やで、センス」
シンジ「トウジって、洞木さんのことが好きなんじゃないの？」



鈴原君、好きよ……

トウジの脳裏に浮か上がるヒカリの微笑み。

ヒカリ「鈴原君、好きよ……」
トウジ「すまん！ 許してくれえ、ヒカリ」
シンジ「やっぱりねえ……」
トウジ「なあシンジ、綾波のこと云々は絶対、秘密やぞ」
シンジ「僕だけの秘密だね」
トウジ「シンジは男や！」
シンジ「トウジって、オーバーだね」



トンネル内

エレベーターを降りて先へ進むと、岩割き出しになったところから湧水が出ている。
ケンスケ「この水には、汚染物質が含まれているかも知れない」
シンジ「湧ってこと？」
ケンスケ「触るだけなら平気だろう」
綾波「岩の間から水が出ている」
綾波「おいしい」
シンジ「わっ、何で飲んじゃうの？」
綾波「だっておいしいよ」
シンジ「毒かもしれないのに」
綾波「箱根の天然水だよ」
シンジ「どれどれ？」
シンジ「飲める。冷たくて、おいしいかも」
綾波「彼君は臆病だね」
シンジ「綾波は勇敢というか、無謀……」

さらに進んだところで、シンジの腰が激痛を訴える。
シンジ「僕のお腹だ……」
綾波「どうしたの？」
シンジ「綾波は平気なの？ うっ……」

ネルフ本部・トイレ

トイレに駆け込んだシンジ。情けなさに少し落ち込む。
シンジ「男として最低だよな、腹痛でリタイヤするなんて」
トイレのドアを叩いて綾波。
綾波の声「ねえ、ハライタは治った？ どうなの？」
シンジ「軽くなったみたい」
アスカの声「痛みはどうなの？ ねえ！」
シンジ「大丈夫だってば」
綾波の声「お薬もらってこようか？」
シンジ「恥ずかしいから外で待っていてよ」



おいしい
箱根の天然水だよ



うっ……



恥ずかしいから
外で
待っていてよ



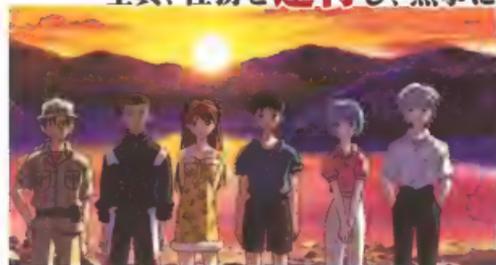
シンジ君、具合はどう？

楽になったみたいですよ



風を感じる

全員、任務を遂行し、無事に帰還することが出来た

畜生！
畜生！

ネルフ本部・控室

リツコ「シンジ君、具合はどう？」
シンジ「楽になったみたいです」
リツコ「そう、よかった」
アスカ「水飲んだくらいでお腹壊して、子供みたいね」
シンジ「アスカだって子供のクセに」
アスカ「きー！ なんてずって!？」
綾波「彼君、大丈夫？」
シンジ「平気だよ」
綾波「みんな地上で待ってるから」

戸ノ瀬・湖畔を走るシーブ

ミサト「風を感じる」
アスカ「ミサトは新しい被氏、出来た？」
ミサト「そうね、身長3.4メートル、体重1370キログラム、出力76馬力、鉄で出来ているところかしら」
シンジ「このクルマのことですね」
アスカ「ふーん……生身のボーイフレンドは？」
ミサト「自動販売機の前でくつろいでいたら、声をかけられちゃってね。適当にあしらっておいた」
アスカ「加持リョウジ」
シンジ「アスカも加持さんのこと、好きだよね」
アスカ「アンタは余計なこと言わないの」
シンジ「この間だって追っかけようとして」
アスカ「がああああ!」

戸ノ瀬・湖畔

ケンスケ「全員、任務を遂行し、無事に帰還することが出来た」
シンジ「お腹が痛かったけれど」
トウジ「怪我が無うて良かったで」
アスカ「得る物もあつたもんね」
カヲル「寝巻を深めたね」
綾波「勉強にもなった」
カヲル「僕はここで帰る」
シンジ「え？」
カヲル「さよなら、シンジ君」
シンジ「さよなら……」
シンジ「カヲル君……」
綾波「彼君が無事で良かった。少し責任を感じたから」
シンジ「すっかり良くなったよ」
綾波「アスカに内緒で、ふたりだけで帰るのでもいいかな」
シンジ「僕とふたりで？ アスカに内緒で……」
アスカ「なんか呼んだ？」
シンジ「いやあ、なんでもないよ」
綾波「彼君、面白い」
アスカ「寛が入ったのなら、のしつけて『御中元』とか貰っちゃおうわよ。さ、シンちゃん行こう」
シンジ「え、うん……」
アスカ「私がじっくり仕込んであげる」
シンジ「うん……」
トウジ「うわあああ！ 拓ましいいィィ!」
ケンスケ「トウジ！ どうしたの!？」
トウジ「シンジばかりええ思いしやがって！ 畜生!」
ケンスケ「トウジってば!」
トウジ「畜生！ 畜生！ 畜生!」

第参章 恋の駆け引き

シンジの自宅・居間

シンジの着替え中にアスカが乱入、抱きつくようにして、手紙をのぞき込む。

アスカ「あら、ママから置き手紙？」

シンジ「迷惑の邪魔したら遅刻しちゃうよ」

アスカ「ユイの声「何々？」 シンジへ、今日

は研究所の仕事で帰ることが出来ません。松代へ出かけるため一泊します。食事はいつものように外で食べて下さい。母より」
シンジ「久しぶりの留守番で夜更かしも出来るし。親子飯はコーラとポテトチップにしようかな」

アスカ「今夜はシンジの家に泊まる」

シンジ「え？」

アスカ「寝たら返るからね。あと、夕食は私が作る。放課後、買い物に行こう」

第番中学校・教室

シンジと双眼鏡で外を見ているケンスケが窓際に寄りかかっている。

ケンスケ「松代で夫がかりな実験があるらしい。親父も残業で帰らないし。大人たちは巨大科学に専身的なのさ」

シンジ「僕たちは特機した方がいいのかな」

ケンスケ「何かあれば連絡が来るでしょ」

シンジ「さっきから何、見ての？」

ケンスケ「トウジのやつが、委員長と話している」

シンジ「あのふたり、出来てるのかな？」

ケンスケ「トウジは彼女のこと、何も話してくれないから」

シンジ「純情なんだね」

ケンスケ「夫婦のまねごとなんてガラじゃないのさ。もっと男らしく有意義に学園生活を過ごして欲しいものである。どうよ、錠君」
シンジ「え？ ハハハハ……僕の場合は成り行きでアスカと一緒にいるんだし……、有意義な過ごし方か……」

校内放送「生徒の呼び出しを致します。2年A組、錠シンジ君。至急、保健室まで来て下さい」

シンジ「僕だ」

第番中学校・保健室

リツコ「最近、肩が痛くてね」

シンジ「僕を呼び出したのは肩こりの治療ですか？」

リツコ「シンジ君の声が聞きたくなったから。私ね、松代へ出張に行くの。錠君のお父さんと一緒にのよ」

シンジ「研究所って忙しいんですね」

リツコ「遊ぶなら今のうちね。大人になるにつれて時間は減っていくものよ」

シンジ「大人って、なんだが寂しい気がします」

リツコ「さすが親子」

シンジ「え？」

リツコ「シンジ君の手。お父さんの手と同じだね。ありがとう、助かった」

シンジ「はい」



さっきから
何、見ての？



最近、
肩が痛くてね

雨か……

今日は
第6回定期演奏会。シンジ君との二重奏、
楽しみにしているよ女として夜明けを
迎えないの!碇君と
遊びたかったのに

第6中学校・教室の悪戯

綾波とカヲルに話しかけられるシンジ。
カヲル「今日は第6回定期演奏会。シンジ君との二重奏、楽しみにしているよ」
シンジ「ちょっと待って、それ今日のの?」
綾波「私も勝手に行くかと思うの。碇君の演奏も初めて見るし」
シンジ「ろくに練習もしていないのに」
カヲル「僕もだよ、気にするな。アマチュア主体の気楽な演奏会だから」
綾波「碇君はチェロを弾くんでしょ? フォーマルな服装の中学生。重厚な弦楽器。嫉妬と野心の渦巻く演奏会場。ふたりの美少年。美しき友情……」
シンジ「綾波がそこまで楽しみにしているなんて」
カヲル「シンジ君、演奏会場で待っているよ」

第6中学校・教室

シンジ「例えば、アスカと一緒に演奏会来るのはどうかな?」
アスカ「あの子も来るんでしょ」
シンジ「綾波のこと?」
アスカ「私、行かない」
シンジ「席を離れて座るか?」
アスカ「ふたりに夜明けを迎える、減さないチャンスなのに」
シンジ「うーん……そこまで言うなら」
【カヲル君と演奏会へ行く】を選択した場合
シンジ「カヲル君が誘ってくれたんだ。ふたりに演奏することに価値があると思う。アスカとはいつでも会えるけれど、演奏会は今日だけだから」
アスカ「私と過ごす時間の方が、何倍も価値があるよ!」
シンジ「今日、1日だけだってば!」
アスカ「女として夜明けを迎えたいの!」
シンジ「教室のみんなが見ているよ……」
アスカ「心もカラダも奪われて、もう引き返せないのよ……」

第6中学校・音楽室

シンジ「美は、まだ迷っているんだ」
カヲル「素晴らしい演奏会場だよ。君の服も用意してある」
シンジ「僕の服も? どんな会場なの?」
カヲル「澄んだ水をたたえた中庭を見ながら、木製の扉を開く。適度に調節された空気。葡萄色の絨毯。ガラスの壁から降り注ぐ太陽。客席の扉はすでに開かれており、音を返ね返す構造の壁が壁面に組まれている……」
綾波「ベルベットの客席。イタリアのオルゴールのような舞台。碇君の息づかい。客席から見守る私……」
シンジ「綾波、そこにいたの?」
綾波「演奏会、行くよね」
シンジ「そうだね……」
【一日、アスカと付き合う】を選択した場合
シンジ「別の約束があって、演奏会には行けそうにない」
カヲル「仕方ないさ。僕ひとりで行くよ」
シンジ「カヲル君、すまない! ごめん!」
綾波「別の約束って誰?」
シンジ「えっ……誰って……」
綾波「碇君と遊びたかったのに」

CASE of アスカ

【一日、アスカと付き合う】

新吉祥寺・サンロード

繁華街にシンジとアスカの姿が、腕を組んで歩いている。

シンジ「その大きな荷物は着替えなの？」
アスカ「本気で泊まるんだから。へんな気、起こさないでね」

シンジ「変な気ねえ」

アスカ「さて、晩ご飯は何にしようかな〜♪」

アスカ「さあ問題です。料理の材料の手に入るお店といえどこでしょう？」

シンジ「食材といえは、SAYYOUかな……」

アスカ「びんぼーん」

シンジ「目的地はSAYYOUだね」

早速SAYYOUに向かうふたり。その中でシンジは街行く人の動きの慌ただしさが少し気になっている。

サンロード・一丁目二番

人々の噂話が聞こえてくる。

街ゆく紳士「街頭のテレビに大変なものを書いてるらしいぞ」

アスカ「見に行ってみようよ！」

サンロード・三丁目三番

街頭のオーロラビジョンにニュースが流れる。画面には光の巨人の映像。

キャスター「これが独自で入手しましたアダムの映像です」

田所教授「悪魔の姿だぞ！ 何とおそましい」
キャスター「我々人類はどのような対策を取れば良いでしょうか？」

田所教授「アダムの目的はイブとの接触じゃ。どこかに居るのだが未だ不明。人類は巨大ロボットでアダムの悪路を阻止するしかない。グフフフフ……実はある秘密を握っている。視聴者の皆さんに伝えたくて、このような放送を……」

言葉を遅るようにモニターにノイズが走って、何事もなかったようにキャスターが。

キャスター「大変失礼しました。お知らせの後は、かわいい動物の赤ちゃん、パート2」

シンジ「アダムか」

アスカ「アンタ、そういうの好きね」

SAYYOU・生鮮食品売り場

夏野菜や色鮮やかな果物、鮮魚に精肉が並び、アスカは生鮮野菜の棚を真剣に眺めている。シンジはその荷物持ちだ。

右手にキャベツ、左手にレタスを持って悩むアスカ。

アスカ「これがレタスで、こっちがキャベツ……」

今度はニンジンとイワシをつまんで見比べ、アスカ「えっと、これがニンジンで、こっちがイワシ……」

シンジ「どんな料理にするつもり？」

アスカ「材料を見てから決めるの」

シンジ「大失敗のゲテモノ料理かな」

アスカ「うっさいわね！ 火を通せば、なんだって喰える」

CASE of アスカ



さて
晩ご飯は何にしようかな〜♪



アンタ、そういうの好きね

アダムか



これがニンジンで、
こっちがイワシ……

アスカと碓君を
見れば
刺激になるよね。



私たち、
碓君の家にお邪魔します



ムズい

ムムムムムツ



やだ、もう

この金魚みたいに
膨らんだヤツが
ヒカリのだな

そこにトウジとヒカリが現れる。
ヒカリ「私たちこれから、夕食の支度なの」
アスカ「まさか！」
シンジ「同居生活に突入？」
トウジ「ちゃーっやう！ 親が研究所勤めで留守やから、パンメシ、付きあってもるたんや。今夜だけな」
シンジ「そうか、トウジもやるときはやる。うん、うん……」
トウジ「お前かて、アスカと何してん！」
シンジ「ちょっとね……」
ヒカリ「アスカもお買い物？」
アスカ「シンジの家で夕食するの、一緒にどう？ なんちゃってネ」
ヒカリ「一緒に？」
シンジ「そうだよ、うちにおいで！ アスカの実験料理より数倍、いや数百倍！ 数千倍！ いい！」
アスカ「ムムムムツ」
ヒカリ「そうねえ……」
いきなりヒカリにスポットライトが、
ヒカリ（モノローグ）「アスカと碓君を見れば刺激になるよね。鈴原君、時々静かになっちゃうし……4人で過ごせば気まづくならないし……」
鼻旗を戻すヒカリ。両面の瞳線が戻ってくる。考えた末に、
ヒカリ「楽しいかも」
トウジ「センセがよかったらウシら、それでもええて」
シンジ「決まったね」
ヒカリ「私たち、碓君の家にお邪魔します」

シンジの自宅・ダイニング

台所を確認するトウジ。
トウジ「センセの家、いろいろ揃ってんな」
シンジ「接し物？」
トウジ「稼の中の余飯ポウル、貸してくれ」
シンジ「いいよ」

シンジの自宅・居間

居間。シンジとヒカリが手早く餃子を包む様で、アスカはひとり悲観音顔している。
アスカ「ムムムムムツ、ムズい」
ヒカリ「皮を合わせるところを水で濡らそう」
アスカ「フムフム、なるほど」
シンジ「何倍ぐらい作る？」
ヒカリ「みんな育ち盛りでよ、全部包もうよ」
ダイニングの方からトウジ。
トウジの声「ヒカリ」
ヒカリ「なあに？」
アスカ「『ヒカリ』だって、グフツ」
シンジ「ファーストネーム呼び捨て……」
トウジの声「出来た分、持ってきて」

台所で仲むつまじいトウジとヒカリ。それをこっそり覗き見るのはシンジとアスカだ。
トウジ「お、ええ感じ、この金魚みたいに膨らんだヤツがヒカリのだな」
ヒカリ「やだ、もう」
シンジ「トウジが台所立って料理している……」
アスカ「あーあ、私も誰かの家で包んで欲しい」

トウジ「今日はお祝いや！ ワシら4人の友情に乾杯するで〜、センスからどうぞぞ！」
シンジ「どうも……月のお祝い？」
トウジ「餃子記念日！」
シンジ「私たちの餃子記念日に……」
トウジ&ヒカリス「アスカ「かんぱーい！」」
テーブルに並ぶ餃子を食べる一同。
シンジ「焦げ目のところが歯こたえが軽い、香ばしくて美味しいね」
トウジ「焼くときに片栗粉をちょっと加えるんや。んー！ うまい！」
アスカ「おいしい、ドイツ人もビックリ」
ヒカリ「みんなで作ったから美味しいさも2倍3倍なのね」
シンジ「餃子って楽しい」
トウジ「猜も付くで！ 夜なんか、もうゲンギン！」
アスカ「それが目的だったりしてね」
ヒカリ「恥ずかしい」
トウジ「ええやないか、これから、何があるかわからん。こんな世の中やから、体力を付けて強く生きな」
酒を置くシンジ。
シンジ「アダムって知ってる？」
トウジ「アダム、光る人間のアレか。テレビでやってるな。雪男とか、ネッシーとか、そんな話やろ。アホらしい」
シンジ「僕は見ただんだ」
トウジ「今、考えんでええ。明るく楽しくしたら、それでええやないか！」
アスカ「なにムキになっちゃって」
トウジ「餃子喰えや！ 腹減ってイライラするやろ」
アスカ「なんだが美味しくない！」
ヒカリ「鈴原君、私が知らない話だから、気を使ってるの」
トウジ「ええって……」
ヒカリ「人造人間エヴァンゲリオン。人類の為なのよね。きっと……」
トウジ「ヒカリスは気にすんな。いつまでも笑顔でおってくれ……」
シンジ「トウジと洞木さんは、この肉汁のように熱々なんだな……」
アスカ「よ！ ご両人！ お熱いでげすな！」
ヒカリ「やだな恥ずかしい」

駅前通りの公園

4人が夜道を歩いている。
トウジ「ワシら、あのバケモンと戦うことに、なるんやろか」
シンジ「そう考えるのが自然だろうね」
トウジ「それがワシらの運命か」
シンジ「まだ時間はある」
トウジ「残された時間は、めっちゃ少ないんやろ？」
シンジ「今夜も大切な時を過ごしていると思う……」
トウジ「そやな。何でも大人の言いなりは、アホ臭いもんな……ワイとヒカリスはここで帰るわ」
ヒカリ「錠君、今日は色々ありがとう」
シンジ「ごちそうさま」
アスカ「夜はこれから。大切な時間を過ごしてな」

僕たちの餃子記念日に……



よ！ ご両人！ **かんぱーい！**
お熱いでげすな！



やだな**恥**ずかしい



今夜も**大切**な時を



過ごしていると思う……

第四章 カヲル君と演奏会

第3 新東京駅

カヲル「この街に、若き才能の集う音楽堂が存在する」

シンジ「コンサートホールの舞台上立つなんて、胸がドキドキする」

国立音楽劇場

シンジ「こんな大きなコンサートホールで演奏するの？」

カヲル「参加者は32名、僕たちは8番目だ」

国立音楽劇場・控入室

シンジ「初めて着るんだけれど、なんだか結婚式みたいだ……」

カヲル「似合っている。君はとても可憐だよ」
遠くから観客の拍手が聞こえる。

シンジ「ヒザが震える……汗が滲む……手が滑ったらごめんね」

カヲル「シンジ君に限って、それは無い」

シンジ「そんな……」

カヲル「君はかなりの弾き手らしい」

シンジ「家で気まぐれに弾く程度なのに……そんな話、誰から聞いたの？」

カヲル「君のことは何でもわかるよ」

国立音楽劇場・コンサートホール・舞台上

シンジ「綾波が来ている」

綾波「楽器の音って大きい……」

シンジ「綾波が演奏を聴いている、僕のチェロを聴いている……」

綾波「楽器が弾けるって凄いな、あの旋君が、ザルツブルグの天才少年にみえる」

綾波のイメージ。天使のように羽を広がっている綾波を抱き上げるシンジ。

綾波「もし、あの服で抱きしめられたら、全身の毛穴が開いて、体液が蒸発してしまうかも……」

国立音楽劇場・ロビー

綾波「演奏、感動した。お花を渡そうと思って……」

シンジ「ありがとう」

綾波「今日の旋君、凄く良かった。その服もカッコイイ」

シンジ「綾波もきれいだよ」

綾波「旋君みたいに、楽器が弾けたらいいな」

シンジ「泣いているの？」

綾波「ちょっと感じちゃっただけ。それから、お願いがあるの」

シンジ「どんな？」

綾波「その服、少しだけ抱きしめていい？」

シンジ「歓迎するけど……」

綾波を抱きしめるシンジ。

綾波「旋君、汗かいている」

シンジ「舞台は暑かったんだ」

綾波「薫風の香水の匂いがする」

シンジ「カヲル君だ」

後ろからカヲルが現れる。
カヲル「着替え終わったら、3人で紅茶を飲みよう」

なんだか
結婚式
みたいだ



綾波が
演奏を
聴いている



今日の旋君、
凄く良かった。



カフェテラス・店内

カヲル「シンジ君のチェロは、人衆の歓喜を歌い上げるためにある」
シンジ「物心ついたときからバツハを弾いていた。今日はずまく弾けて良かったよ」
綾波「君の紅茶、飲んでみたい」
シンジ「僕が口を付けたカップだけだ」
綾波「飲んでみたいの、ねえいいでしょ？」

シンジ「うん……」
綾波「……おいしい」
シンジ「これって、誘われているサインなのかな……」
カヲル「願いを叶えてあげよう、僕と彼女のどちらを選ぶ？」

CASE of 綾波

【綾波とふたりになる】

砂浜
綾波「足の裏で砂がはじけるよ！」
シンジ「転ばないように気を付けて！」
綾波「濡れてもいいの！ だって仮君と一緒にいるんだもん」
シンジ「綾波は僕がいいの？」
綾波「海に入っていると、生きている感じがする」
シンジ「大きな波が来る」
綾波「結局波をかぶってしまったふたり」
綾波「濡れちゃったね」
シンジ「この日差しなら、すぐ乾くだろう」
綾波「新しい自分になったみたい。海へ来て良かった」
シンジ「ずっと、こうしていたいな……」

CASE of カヲル

【カヲルとふたりになる】

箱根・小湊谷・浜谷
シンジ（モノローグ）「綾波からもらった花束が散っていく……」
箱根・小湊谷・見晴らし台
シンジ「この寂しさは何だろう」
カヲル「孤独という感覚は、大人になる成長過程で、誰もが体験する」
シンジ「大人にならなくないって思ったら？」
カヲル「喜び」を知れば背伸びさせる」
シンジ「よここび、か……」
カヲル「彼女とは、また学校で会える」
シンジ「わかるよ……でも」
カヲル「僕の気持ちを考えたこと、あるかい？」
シンジ「カヲル君の気持ち？」
カヲル「傷つきやすい天使なんだ」
シンジ「そうか」
翼を広げたカヲルに抱きあげられるシンジ。
シンジ「カヲル君の痛みを考えたことは無かった」
カヲル「君のことが好きなんだ」
シンジ「カヲル君に抱かれよう」
想いに応えるシンジ。
シンジ「僕自身がやさしくなれる」



CASE of 綾波



CASE of カヲル





誰から？

第伍章 ふたりで迎える夜

シンジの自宅・居間

シンジ「アスカの携帯、帰ってる」

アスカ「シンジの携帯」

シンジ「え、僕の？」

携帯を取るシンジ。

シンジ「はい」

綾波「綾波レイです」

シンジ「あ……こんばんは」

綾波「今、駅のホームにいるの」

シンジ「どうしたの……？」

綾波「今日、カラル君の演奏会に行ってきた」

シンジ「そう……どうだった？」

綾波「感動しちゃった、彼君も演奏すれば良かったのに」

シンジ「今日は約束があったから」

綾波「声が聞きたかったの……番飾ったんだよ、私」

シンジ「きれいなんだろね」

綾波「服、見せてあげる。駅の改札口で待っているね」

シンジ「切れた……」

アスカ「誰から？」

シンジ「綾波。駅にいるらしい」

アスカ「そう……どうするの？」

ねえ、
お風呂入ろうシンジは
私のことが、
好きなんだよね

CASE of アスカ

[アスカと一緒に過ごす]

シンジの自宅・居間

シンジに優しい顔さるように入るアスカ。

アスカ「料理って汗かくよね、ベトベト」

シンジ「うん……」

アスカ「ねえ、お風呂入ろう」

シンジ「あ、どうぞ、お先に」

アスカ「ふたりで入るんだってば」

シンジの自宅・風呂場

アスカ「ジャン！」

シンジ「なんだ、水着か」

アスカ「浴面でこういうシーンあるじゃない、一度やってみたってんだ」

シンジ「そう……」

アスカ「どう？ うれしい？」

シンジ「恥ずかしいよ……」

アスカ「なんだか子供のカラダを洗っているみたい」

シンジ「アスカ」

アスカ「なに？」

シンジ「アスカは頑張っている、僕も応援しているよ」

アスカ「そう、ありがと」

シンジ「うまく言えないけれど……アスカのこと、いいと思う」

アスカ「シンジは私のことが、好きなんだよね」

シンジの自宅・シンジの部屋

アスカ「おやすみなさい……」

シンジ「おやすみ……」



おやすみ……

おやすみなさい……

CASE of 綾波

【綾波の待つ、駅へ行く】

シンジの自宅・居間

ごろ寝してテレビを見ているアスカ。シンジ、携帯を切って、シンジ「ちょっと行って来る」アスカ「早く戻ってきてね」

仙石原・歩道橋

歩きながらひとりごちるシンジ。シンジ「こんな夜に、綾波に会う僕も、どうかしている」

仙石原駅・改札口

改札にシンジがたどり着くと、ドレスで華飾った綾波がいる。

綾波「呼び出したりして、ごめんなさい」

シンジ「綾波……かわいしい」

綾波「錠君にこの服を見せたかったの」

シンジ「電話がうれしかった、僕はは夢みただから」

綾波「ありがと。救われた気持ちがある」

シンジ「もう帰るの？」

綾波「錠君は？」

シンジ「実は、さっきまでアスカと一緒にだったんだ」

綾波「そうなの……ちょっと嫌な気分」

シンジ「本当のことを言うと、まだ家で待っている」

綾波「こうして錠君とふたりきりになれるのは、今夜が最後のかな……」

【このまま綾波と旅行？】を選択した場合

シンジが要を決する。

シンジ「綾波の行きたいところへ、行こう」

第3新東京環状線・車内

乗客は誰もおらず、電車にふたりきり。窓の外を眺める綾波。

綾波「夜日時45分、ふたりを乗せた列車は星空の中を走る。前に座る女の子は、彼氏を奪って逃窜中。ちょっとしたヒロインだよ」シンジ「綾波って案外、ロマンチストなのかも……」

綾波「ニンニクの、いい匂いがする」

シンジ「餃子だ」

綾波「いい匂いがある」

ミントのプラケースを取り出す綾波。

綾波「ミントを噛むと匂い消えるよ」

第3新横浜港・路地裏街

繁華街の灯りが夜闇を照らす。暗闇が透絶えることはない。

綾波「夜の港街、大人の街」

シンジ「今日の綾波も大人だね」

綾波「おしゃべりしているから」

シンジ「僕が釣り合わないかも」

綾波「お風呂にも入って、髪も洗って、カラダもきれいにしてきたの」

シンジ「気合いの入力方が違う」

綾波「下着も全部、新しくしてきた」

一瞬、言葉がつかまるシンジ。

シンジ「どうして？」

綾波「夏の思い出が欲しいの」

CASE of 綾波

こうして錠君とふたりきりになれるのは、今夜が最後のかな……



ちょっとした
ヒロインだよ



夜の港街、
大人の街

人の愛情表現としてさ……
することがあるじゃない



氷川丸・甲板の上

甲板からは街の灯りが見える。
綾波「この海に、町が沈んでいるんだね」
シンジ「海堀の水が解けて、海面が上昇したんだ」
綾波「人の愛情表現としてさ……することがあるじゃない」
シンジ「え、何の話？」
綾波「手をつないだり、腕に掛きついたり、男と女って、そういうことするけど……私は……」
シンジ「手をつなごうか？」
シンジに手をにぎられる綾波。
綾波「こんなに緊張するんだね……やっぱり私って、こういうの苦手なのかも……」
シンジ「どうする？」
綾波「ごめん……怖い」
シンジ、寄り添う綾波を抱きとめる。
シンジ「僕も綾波と同じ気持ちだから」
彼らの上に満月が輝いている。

路線バス・車内

シンジと綾波が並んで座っている。バスは第3新横浜を抜け、寂しげな郊外へとさしかかっている。
綾波「そうだよな……」
シンジ「え？」
綾波「[象を背む] っていう意味がわかった」
シンジ「どんな意味？」
綾波「時間が必要なのね。ふたりが出て、お互いを好きになって、語り合って……それから船れあいがあって……そんな、ゆっくりと流れる時間……」

シンジの自宅・廊下

輝ると家の中は真っ暗。そしてそこにはアスカの姿はない。
「たがいま」
ノートパソコンのスクリーンセイバーに文字が表示されている。
アスカの声「帰ります 電話はしないで！アスカ」
シンジ「……」
アスカのことを思い、言葉のないシンジ。



『愛を背む』っていう
意味がわかった



第六章 大人たちの楽園

ネルフ本部・中央作戦室発令所

突然の警報。騒然としている発令所ではオペレーターからの報告が飛び交っている。青葉「太平洋沖に接近する物体あり」マヤ「MAGIによる解析を実行中」日向「警戒モードCに切り替えます」

モニター上に水上を航行するガキエルと並行飛行するシャムシエルが映る。

ネルフ本部・中央作戦室発令所・司令席

グンドウと冬月が、発令所のモニタを見上げている。冬月「やれやれ、やっと我々の出番か」グンドウ「最終章のお膳立てに過ぎんからな」

ネルフ本部・中央作戦室発令所

オペレーター席にはマヤ、日向、青葉。ミサトとリツコが後ろで解析結果を待っている。リツコ「解析の結果はどう？」マヤ「MAGIは解析不能を提示しています」ミサト「衛星軌道上の物体はどう？」日向「衛星の映像を主モニターに回します」

衛星軌道上にサハキエルとアラエルがゆらゆらと漂っている。ミサト「海から2体、宇宙から2体が……」リツコ「タスクのプライオリティ変更」マヤ「第17タスクを3から7に変更」コンソールを操作するマヤ。マヤ「解析実行」青葉「足柄山の光学観測所より入電。旧関東方面に移動物体を確認」

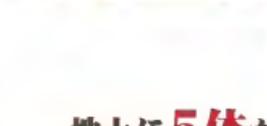
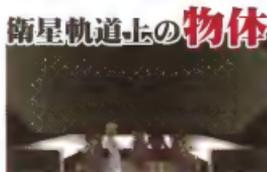
モニターが捉えたのはサキエル、ラミエル、イスラフェル、マトリエル、ゼルエルの進撃している姿。青葉「全部で5体です」ミサト「地上に5体が……多すぎる」日向「合計9体が移動中、軌線上に交わる点は、第3新東京市」

ネルフ本部・中央作戦室発令所・司令席

グンドウ「凄い引きには人数が多すぎる。力づくで闘うつもりか」冬月「時間が足りなくて、まとめて来たようだな」グンドウ「脱走の準備は出来ている。そう易々と美女には会わせんよ」

初号機・操縦席

シンジ「いきなり怪物の前に放り出されても……全部消えちゃえばいいのに」青葉（黒線）「太平洋の2体、御蔵島沖で消えました！」日向（黒線）「旧関東方面の5体も消失、衛星軌道上の2体も確認できません！」マヤ（黒線）「ほぼ同時に、全ての移動軌跡が消えました！」



太平洋沖に**接近**する物体あり



地上に**5体**か……多すぎる

全部消えちゃえばいいのに



ちよっと来い!

シンジ、話がある!

CASE of アスカ

CASE of アスカ

【アスカに付いていく】

アスカの剣撃に身の危険を感じ、あとを追うシンジ。
シンジ「待ってよ、どこ行くの?」

ジオフロント・廻坪

ジオフロント内で汎用機が暴れている。
アスカ「とりゃあ! 回し蹴り! 負けないうわよ!」

シンジ「アスカ、怒らないでよ」
アスカ「やるか!」
シンジ「さっきのことは、謝るからさ」
アスカ「とりゃあ! 巴投げ!」
シンジ「わあ、なにすんの!」
背中から地面に叩き付けられる初号機。
シンジ「ううっ、一本取られた……」

ネルフ本部・教團室

足をひねったシンジ。救護室へ。
マヤ「ふたりとも元気がいいのね」
シンジ「アスカが無茶するから」
アスカ「そっちこそ鍛え直した方がいいんじゃないの?」
加持「やあ、ジオフロントの大きな回りは誰のかな?」
アスカ「加持さん! 来てくれたの?」
シンジ「あの穴は僕がアスカに投げられて、落ちた場所です」
アスカ「シンジは黙っちゃれ!」
マヤ「加持さん」
加持「おお、ニューフェイスの登場」
マヤ「この間は、どうもありがとう」
加持「あれは、少し刺激が強かったかな?」
マヤ「私、好きです、ああいうの」
シンジ「大人の会話だ。なんの話だろう」
アスカ「私たち、戻ります!」

ネルフ本部・移動廊下

シンジ「なんで、話の途中で出て行っちゃうの?」
アスカ「……」
シンジ「アスカは加持さんが好きなんだね。マヤさんと話しているのを見て、嫉妬しているんだ!」
アスカ「バカね、私の方が勝ってる。余裕を見せつけてやったのよ」



とりゃあ!
回し蹴り!
負けないうわよ!



ううっ、
一本取られた……



鍛え直した方が
いいんじゃないの?

ネルフ本部・V-1 エレベーター内

エレベーター内。狭い中、ゲンドウとリツコが乗っている後で、悪心地悪そうにいるシンジとアスカ。

リツコ「警報は解除しました。MAGIの判断による。作戦の開始は72時間後。パイロットは48時間後に集合。それまで各自、待機」
ゲンドウ「自由時間が……最後の安息日だ。宙にそう伝える」

リツコ「わかりました。シンジ君、アスカ、そういうことから」
シンジ「はい」

アスカ「自由時間、どうしょっかぬ」

ゲンドウ「赤木博士、君はどうする」

リツコ「食事の時間だけ頂きます」

ゲンドウ「そうか……」

シンジ「父さんは家へ帰らないの？」

ゲンドウ「司令と呼べ」

シンジ「(ムカッ)……」

アスカ「(怖い……)」



司令と呼べ

父さんは家へ帰らないの？

国道

ミサトとシンジが乗っているフェラーリ512BBが国道を駆け抜ける。サングラスをかけ、冴々しいミサト。

ミサト「飛ばすと気持ちいい」

シンジ「大人は発散できるモノがあていいですね」

ミサト「あら、シンジ君、溜まってんだ」

シンジ「溜まってると、何がですか？」

ミサト「わかった、溜りに私の家へ招待するから。そこでパーッと発散しましょ」



南中学校・職員室

机を挟んで横河川の先生の前に立つミサトとシンジ。

老教師「ご学友は皆、街を出て疎開してしまっただよ」

シンジ「そうですか」

老教師「彼君はこの町に残るんだっかね」

シンジ「はい」

老教師「ご尚頼は研究熱心でおられる、お留守番はつらがるう」

シンジ「留守番と言うよりは……」

ミサト「(せんせい……)」

いきなりミサトに手をにぎられ、年甲斐もなく赤くなる老教師。

老教師「熱域先生……」

ミサト「(彼シンジ君の件、私の方で責任を持って、預かります)」

老教師「そうですか、よろしくお願ひします」

南中学校・教室

誰もいない教室にシンジとミサト、物置げに見回すふたり。

ミサト「(こども見おさめか)」

シンジ「(なんだか寂しいですね)」

教室の扉が勢いよく開いて、アスカが現れる。機嫌はすこぶる悪い。

アスカ「なに、ふたりでコンソクしてんのよ」

シンジ「アスカ! 待ち伏せ?」

ミサト「あちゃー」

アスカ「あちゃー、じゃないわよ! 不公平! えこひきさ! 公私混同!」

ひたすら叫び散らすアスカ。



飛ばすと気持ちいい

彼シンジ君の件、



私の方で責任を持って、預かります



ふたりは
大人の**関係**って感じですね



CASE of 綾波



みんな
行っちゃったね



感謝しろ

最後の記念だから。

ミサトの自宅・居間

アスカと、呼び出した加持とともにミサトの自宅へ、居間のテーブルには紅茶とケーキが並ぶ。加持とミサトがソファに並んで座り、その対面のソファでアスカは不機嫌。シンジは隣で立身なし。

アスカ「やだやだ！ 私の加持さんなのに！」
シンジ「ふたりは大人の関係って感じですね」
加持「そうだ、良く見ておくんぞ」
ミサト「ダメよ、私たち仮面カップルだから」
加持「ちょっと待ってくれ。仲いいよ、俺たちは」

ミサト「どうだか」
加持「まるで空気のようじゃないか」
ミサト「愚議の外だからな」
加持「君たちも似合っているよ。もっと寄り添ったらどうだ？」

アスカ「イヤだ」
シンジ「まあこんな感じですよ」
アスカ「いわばシンジは発射台。私は白い口グットなの。燃えるような情熱で全世界を2周、3周！」
シンジ「まあ……こんな感じなんです」

CASE of 綾波

【綾波の味方をする】

ネルフ本部・待機用小室

シンジ「待機中なんだよ」
アスカ「もういい！ 外の空気吸ってくる！」
トウジ「ワシも着替えてくるかなあ、っと」
カヲル「警報解除がもしれない、様子を見てくるよ」

綾波「みんな行っちゃったね」
シンジ「アスカを刺激しないでよ」
綾波「錠君の態度に反応したんだって」
シンジ「僕の態度？」

散歩に出たシンジの前に綾波が現れる。
綾波「錠君、ふたりに公園に行こうよ」
シンジ「どうしたの、急に誘ったりして」

井の原公園・水辺のベンチ

シンジの前に現れる綾波。お腹を出したTシャツ姿で登場。

綾波「錠君、見て！」
シンジ「綾波のおへそ」
綾波「悪い切って、おなかを出してみたの」
シンジ「綾波って、なんでもいい奴」
綾波「最後の記念だから。感謝しろ」
シンジ「感謝する。でも、最後じゃないよ。未来の希望はある」

綾波「戦いはキライ。多くの人が傷つくもの」
シンジ「人類を救うためなんだ。多少の犠牲は仕方ないよ。僕は間違っている？」
綾波「人は愛し合って子供を慈しむ。錠君もそうやって産まれてきたのよ」

シンジ「あの父さんから、命を授かったかと思うと、おぞましくもあるけれど」
綾波「錠君は男の子だからな」
シンジ「綾波は女の子だからな」
綾波「そうね……」
シンジ「綾波は僕のこと、どう思うの？」
綾波「いいと思う……」

第七章 最後の戦い

ネルフ本部・中央作戦室発令所

シンジのつぶやきと呼应するかのよう
に、ロストしていた使徒が一斉にその姿を現す。
ネルフもまた、その戦いに向け、慌ただしく
動き始める。

ゲンドウ「セントラルドグマへ通じる全隔壁
を閉鎖しろ！」

ミサト「Eブロックの隔壁を緊急閉鎖！」

赤く点滅する照明。警報が鳴り響く。
青葉（横内放送）「メインシャフトを含め、E
ブロックの全隔壁を緊急閉鎖します」
隔壁が閉まっていく。

使徒の再出現地点は以前ロストした伊豆諸
島・御蔵島沖、奇巖軌道上、定海山の3カ所。
海域にはガキエルとシャルシエル、軌道上に
はサハクィエルとアラエル、そして定海山方
面にはサキエルをはじめとした5体が控えて
いる。それぞれ出現した場所は違えど、狙い
はただ一点。第3新東京市。侵攻ルートがそ
れを物語っている。

解析したデータから、日向がさくさくしく。
ミサト「まとめておいでなすったか！ べら
んめえ！」

日向「目的地はここですね」

マヤ「計算が狂いつきません！」

リッコ「航路予想の計算に変更」

第3新東京市・市街地

戦艦級の攻撃をもとめせず、そのまま踏
みつぶしてしまうサキエル。なおも進撃を続
ける。

マトリエル、溶解液を出し街を溶かして、
爆発させている。

ネルフ本部・中央作戦室発令所

機を狙っていたかのように立ち上がり、碇
ゲンドウが声を張り上げる。
ゲンドウ「エヴァンゲリオン、全機出動！」

霧瀬・外輪山の砲台

湖を見下ろすように出撃する全機。横並び
一列に並ぶ。

結波の雷号機。

シンジの初号機。

アスカの貳号機。

トウジの参号機。

カラルの伍号機。

5体のエヴァンゲリオンがこれから戦う敵
を前に雄々しく立ち上がる。

シンジ「街が破壊されていく……」

トウジ「どないする？ 攻撃の命令やぞ」

結波「住民は避難したから、生命の危険はな
いはず」

カラル「我々が攻撃を仕掛ければ、反撃は充
分、想像し得る」

アスカ「私たちの街を破壊したんだから、や
られたらやり返すのよ」

全隔壁を閉鎖する！



まとめて
おいでなすったか！
べらんめえ！



目的地は
ここですね





とりゃあああああああ！



わあっ！
押さえつけました！



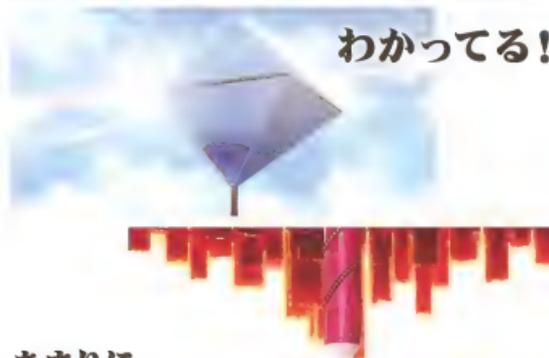
ワイのパンチは
コンクリも打ら**砕く**んや！



悪く
思わな**い**でくれよ



撃ち返される前に**撃つ**のよ



わかってる！

あまりに
簡単すぎる気もする……



来る……

第3 新東京市・警備街

式号機が飛びあがる。狙いはマトリエル！
アスカ「とりゃあああああ！」

ネルフ本部・中央作戦室発令所

作戦本部のミサトから各機へと伝令が飛ぶ。それに従って、シンジたちが各所へと移動。配置につく。

ミサト「初号機と参号機は市街地方面、伍号機は南東2キロへ移動！」

第3 新東京市・市街地

初号機、雷撃のすえ、サキエルを柔道の押さえ込みよろしく捕らえる。

シンジ「わあっ！ 押さえつけました！」

第3 新東京市

ゼルエルが襲ってきたところを、かわしてカウターパンチを叩き込む参号機。兇事直撃し、撃退。

トウジ「ワイのパンチはコンクリも打ち砕くんや！」

第3 新東京市

楯を振り下ろす伍号機。イスラフェルをまっぴらつに切り裂く！

カヲル「悪く思わないでくれよ」

鶴ヶ岳山頂

零号機がポジトロンライフルを構える。ラミエルを照準に入れる。

ミサト（無線）「撃ち返される前に撃つよ」
綾波「わかってる！」

ポジトロンライフルの射撃が命中、ラミエルが一撃のもとに爆発する。

ジオフロント

地面を貫きジオフロント天井部まで穿孔したラミエルのドリルが停止する。

初号機・操縦席

初号機のエントリープラグ。各自の報告が聞こえてくる。

綾波（無線）「青いのは倒しました」

アスカ（無線）「私の一撃で取り倒した！」

トウジ（無線）「こっちょや！」

カヲル（無線）「あまりに簡単すぎる気もする……」

ひとり真剣な表情のシンジ。何かを待ちかまえているかのよう。そして。

シンジ「来る……」



騎ヶ岳山頂

光の巨人が山の奥に現れる。
シンジ「光の巨人だ……」

海中

日型装備を背負った式号機がガゼルに攻撃。致命傷を受けたガゼルが爆発する。
アスカ「やった！」

第3新東京市

夢野俊もシャムシェルを殴り倒す。
トウジ「一撃じゃ！」

宇宙

羽を広げて上昇、宇宙にたどり着いた任号機が、アラエルを激滅する。
カラル「我々と同じ知性を持ったものか……」

第3新東京市・上空

地上に落下するサハクィエル。それをくい止めようとバックパックを背負った奇号機がバーニアを噴かしながら取り付いている。
綾波「だめ！ 力が足りない！ 碇君！」

騎ヶ岳山頂

光の巨人と対面するシンジの切号機。
シンジ「僕に何か話しかけようとしている……」

アスカ（無線）「馬鹿シンジ！ 何ボークしてんの!?」
トウジ（無線）「早よ！ 綾波を助けろ！ ボケッ！」

視界がホワイトアウトする。

うすいもやがかかった奥に、夕星の雫が広がっている。どこからか、ゲンドウとユイがシンジに語りかけてくる。

ユイの声「シンジ……」
シンジ「母さん、これは現実なの？ それとも夢？」

ユイの声「シンジはもう充分戦った……もっと楽にしていいよ……」

シンジ「うん」
ゲンドウの声「シンジ……」

シンジ「父さん」
ゲンドウの声「これからは独りで歩いていきなさい」

シンジ「……」

アスカの声がシンジを呼び続ける。
アスカ（無線）「シンジ！ シンジってば！」
シンジ「はっ……アスカ！」
アスカ（無線）「真上から落ちてくる！」

騎ヶ岳山頂

落下する奇号機とサハクィエル。背中のブースターも押し返すには弱すぎる。すぐに飛び上がる切号機。

シンジ「綾波！」
綾波（無線）「碇君！」
切号機がサハクィエルを両手で受け止める。
シンジ「うりゃあああああ！」
シンジの雄叫びとともに、切号機が腕に力をこめ、サハクィエルが爆発する。



光の巨人だ……



やった！



我々と同じ知性を持ったものか……



だめ！
力が足りない！
碇君！



うりゃあああああ！



感動した！

最終章 また会う日まで

通水式会場

オオイズミ総理「人類が初めて人間を作り得たことは、大災害からの復興を成し、新しい時代への幕開けを記す、大きな一歩である。感動した！」

メインストリート・オープンカーの車上

凱歌パレード。人々に囲まれるシンジたち。ケンスケ「このパレードの趣旨は、人造人間を完成させた科学への賞賛」
カヲル「まさに平和への祈り」
アスカ「モンスターをやっつけたお祝いは？」
カヲル「勝利の凱歌か」
綾波「好戦的だと思われるより、科学の進歩を祝う方が都合がいいのよ」
アスカ「まーっ！ 奮めたモノの見方」
綾波「じゃなに？ 敵を倒したわ！ うれしー！」とか言うわけ？ ぬえ！」
アスカ「勝てばいいのよ、勝てば！ 素直に喜びなさいよ！」
綾波「そういう人がいるから戦争が無くならないの！」
アスカ「地球の平和、守ってのに！ 仲間に裏切られたあーあ！」
シンジ「もっと仲良くしようよ！ 愛嬌ふりまいてさ」
綾波&アスカ「お前に言われたくない！」
シンジ「ううっ……」



みんなの掲示板

ひとりずつ

別々の研究所か

ヒビ計画・パイロット移転先
密通アスカル・ラングラー
ニクスブルグ・カリンタ
人工進化研究所
鈴原トウジ
ニバタ州スゴウマワナン
人工進化研究所
松田ケンスケ
中央アメリカ人工進化研究所
綾波レイ
フランス軍党ボルドエイエックス
人工進化研究所
流カヲル
スペインア人工進化研究所
破シンジ
超人類人工進化研究所・本部

人工進化研究所・掲示板

掲示板に張り出された1枚の紙。そこにはパイロットたちそれぞれの移転先が記されている。
シンジ「E2計画パイロット移転先……」
カヲル「僕らは世界中へ派遣されるようだ」
シンジ「ひとりずつ別々の研究所か」
ケンスケ「莫大な予算投じてるんだぜ、1国で賄いきれないさ」
綾波「また引越しが」
トウジ「しゃーないな。ま、留学みたいなモンと思えば」
アスカ「最後はパーッといきましょ！」

人工進化研究所・中庭

トウジ「あー、喰うた喰うた、満腹じゃ」
ケンスケ「ケーキ10個喰った上にローストビーフのお代わり」
トウジ「もー！」
カヲル「宴たけなわという感じだね」
シンジ「幼なじみのアスカとも別れか」
アスカ「新しい研究所ってどんなところかな」
すると、舞臺曲が聞こえてくる。
綾波「飯君、踊ろう」
シンジ「え？ ここで？」
綾波「かれんな美少女の誘いを断るつもり？」
シンジ「そんなつもりは……そうだね、踊ろうか」
アスカ「ムムム、負けちゃらんないわ！ ケンスケ！」
ケンスケ「ハイッ！」



人工進化研究所構内・ダンス場

綾波とシンジ、身を寄せ合って踊っている。美でアスカとケンスケも踊っている。
綾波「私たち、もうすぐお別れね」
シンジ「今日はいい思い出になる」
綾波「また会えるといいね」
シンジ「会えるさ、いつの日か……」
アスカ「シンジのヤツ、あんなにくっついて、こっちだって、くっついちゃうもんね、ほらっ!!」
ケンスケ「あうっ、大層すぎる、恥ずかしい!」
アスカ「シンジ、見て見て! ケンちゃんと私!」
シンジ「アスカのやつ、僕に当て付けて」
綾波「私とアスカのどっちがいい?」



人工進化研究所構内・正門

エヴァが研究所から運び出されていく。その様子を静かに見送るシンジとケンスケ。
ケンスケ「なあシンジ」
シンジ「ん?」
ケンスケ「ひとつ聞いていいかな?」
シンジ「いいけど」
ケンスケ「うん……」
シンジ「どうしたの、ケンスケらしくない」
ケンスケ「あなの……」
シンジ「なに?」
ケンスケ「なんというか……」
シンジ「大丈夫。どんな場所だってケンスケは、やっていける、頑張ろうよ!」
ケンスケ「違う! そうじゃない!」
シンジ「ごめん。じゃ、何?」
ケンスケ「彼……」
シンジ「ん?」
ケンスケ「アスカを俺に俺にできないか?」
ふたりの隣に一瞬の沈黙が。
シンジ「そうか……」
ケンスケ「彼には綾波がいる。アスカは俺が……どうだろう?」



駒ヶ岳山頂

山頂の手すりにもたれて、夕焼けを見つめるアスカ。その隣にいるシンジ。ふたりが視線を合わせることはない。
シンジ「僕とケンスケのどっちが好き?」
アスカ「私たちはそれぞれ別の道を行く。それでいいじゃない」



シンジの自宅・夜間

小さなパーティ。最後の夜に全員はしゃぎすぎて、ぐったりとしている。
トウジ「ワシ、ヒカリに会いに行く。密とはこれでお別れや」
カヲル「シンジ君、さよならは言わないよ!」



人工進化研究所上の高台

アスカ「夜景がこんなに美しいなんて」
シンジ「僕たちはこれで終わるか」
ケンスケ「ここで別れよう」
綾波「彼等、いっしょに行こう……」
シンジ(モノローグ)「綾波の目は潤んでいる。アスカは夜景を見たまま動かさない。ケンスケは本気で。僕は……」





最後はシンジとふたりきり。
思い出は星の数ね

またいつの日か、



みんなで会えるといいね



シンジ……

このままふたりでドイツへ行こうか

アスカ ENDING

【アスカとこの場に残る】

シンジ「僕はアスカといっしょに残る」

綾波「さようなら……碇君」

走り去っていく綾波。

ケンスケ「祝」

シンジ「ケンスケ……」

ケンスケ「お前はいいやつだね」

立ち去る定音。

ケンスケ「じゃあな！ 祝！」

アスカ「シンジ……」

シンジ「ん？」

アスカ「カッコつけちゃって……でも、うれしい」

アスカとシンジの口づけ。

アスカ「最後はシンジとふたりきり。思い出は星の数ね」

人工進化研究所・正門

正門に集まる一同。

アスカ「いよいよ世界に独立の日だ」

カヲル「僕はこのまま空港へ行くよ」

トウジ「ワシは家のモンと一緒にアメリカへ引越す」

ケンスケ「俺はアフリカ大陸へ行く」

綾波「碇君は日本に残るのね」

シンジ「またいつの日か、みんなで会えるといいね」

新横浜買滞

アスカとシンジ。

アスカ「アスカとも、いよいよお別れか」

シンジ「アスカも元気でね」

アスカ「私のこと、忘れないでね」

シンジ「そんなに僕のことを……」

アスカ「シンジ……」

船内アナウンス「まもなくボーテイングブリッジが切り離されます。お見送りの方は船からお降り下さい」

シンジ「じゃあ、行くよ」

アスカ「ダメ……」

シンジ「わ、ちょっと待って！ 僕は降ります！」

出航する船の汽笛音。

太平洋・洋上

シンジ「アスカのせいで降りられなくなったじゃないか！」

アスカ「だって、名残惜しかったんだもん！」

シンジ「とほほ、日本が遠くなっていく」

アスカ「このままふたりでドイツへ行こうか」

シンジ「えー！？」



綾波 ENDING
【綾波を連れて立ち去る】

人工進化研究所上の高台

夜景を見つめるシンジ、綾波、アスカ、ゲンスケ。意を決したようにシンジが口を開く。
シンジ「僕は綾波と一緒に行くよ」
綾波「寂君……」
アスカ「いままで楽しかった。元気でね」
ゲンスケ「じゃあな、健」

人工進化研究所・横内道助

シンジ「綾波！ 行こう！」
綾波「寂君！」
手を取り、走るふたり。
綾波「この瞬間を夢見ていた気がする」

人工進化研究所・巨大格納庫

そびえ立つ初号機を見上げるふたり。
綾波「ふたりきりになれるところへ行きたい」

砂浜

砂浜に寝そべっているシンジと綾波。その向こうにはエヴァ初号機が座っている。
綾波「ありがとう、きれいな満月ね……」

夜空に浮かぶアスカの笑顔

夜空に浮かぶアスカの笑顔。
アスカの声「さよなら……シンジ」
シンジ（モノローグ）「さよなら……アスカ」
綾波「ねえ」
シンジ「なに？」
綾波「私が慰めてあげる」
シンジの視界に光の巨人が現れる。
シンジ「光の巨人は僕の幻影だった……」
光の巨人がゆっくりと消えていく。
シンジ「僕はこの世界で綾波と生きていくよ」

【十年後】

シンジの自宅・玄関

成長し、正装した洞木トウジが立っている。
トウジ「センセ、迎えに来たで。ほよせいや」
玄関からシンジが現れる。昔の面影は残しつつもすっかり大人になっている。
シンジ「ごめん、支度に手間取っちゃって。今、出てくるから」
綾波の声「お待ちせ」
シンジの妻となった綾波が現れる。その前には子供が抱かれていた。幸せそうに微笑む綾波。



十年後



BADEND4

[シンジ転校エンド]

第26巻 暴風圏・坑内

「調査を控積中、シンジはネルフ本部に入っ
てしまい、扉裏側によって拘束される。」

ホレーション「ネルフ勤務、人畜大層エヴァ
ンゲリオン、マスターナルドレン(即シンジ)
は救出保持のため、10日間拘留後、第二新
大南中学校に強制転校させられた。」

第三新大南中学校・教室

「黒板の前で整備班頭(即シンジ)。
香バチ先生「第3新大南中学校から異なった
転校生を紹介致します。彼(シンジ)君。
シンジ(即シンジ)です……、よろしくお願
いします」



シンジの転校……

BADEND5

[アスカ襲うエンド]

シンジの自宅・シンジの部屋

「シンジのベッドの上のアスカを押し倒して
襲いかかる。」

アスカ「もう我慢できない！
アスカ「やめて、いざなりはイヤ」
シンジ「過ぎたところかかっていても、僕のリビ
ヤーを掴めることは誰にも出来ない、これは
僕の「トビーズなんだ」
アスカ「ムート(即シンジ)の……、ボケッ」
両腕を掴むんじャッ」
アスカに腕の力を奪うシンジッ」



アスカ「アスカ」(即シンジ)は「アスカ」
シンジは「過剰の後に暴風を回復、治療に専念。
1ヶ月後に社会復帰を果たすも、パイロット
は相田ケンスケに入れ替わり、即シンジは解
雇された」
シンジ「モラルの大切さが身に染みてわか
りました」



うわあああ
あああああ！

BADEND6

[ロボシンジエンド]

「アスカの刺撃に押されて殺女を逃すシンジ。
たどり着いたのは加持のスイカ畑。だが
しかし、加持の目の前で襲われていた。
シンジ「うわあああああああ」
吹き飛ばされるシンジ」

「加持の治療も済ませ、シンジは死にすま
だが赤木博士をはじめとした米田のスタッ
フにより、彼はロボシンジとして蘇った」

ニューヨークシティ

「シンジ「私はロボシンジ、ニューヨーク
シティの治安維持のため、任務を遂行します」

「ホレーション「……して世界は平和を取り戻
した。ロボシンジ、私たちは貴の活躍をい
までも忘れません」



Backbone





箱根ウォーカー Hakone Walker

かつては観光地として名を馳せた箱根だが、現在では水害により壊滅した旧東京、長野の第2新東京市に代わる新たな首都として開発がなされている。

新首都予定地・ 第3新東京市とは？

神奈川県南西部、旧箱根町一帯に位置する都市。長野県にある第2新東京市（旧松本市）からの遷都を控え、現在急ピッチで開発が進められている。街のシンボルは都市計画の礎にもなっている芦ノ湖。市内には、世界でも有数の研究機関である人工進化研究所や新吉祥寺といった旧東京を彷彿とさせる繁華街がある。また、地下は広大な地産都市ジオフロントとなっており、圏連直轄の非公開組織・特務機関ネルフの本拠が設置されている。なお、市内を走る主な交通機関とその路線図は右図。下記を参照のこと。本展の舞台となっている地域については、P72～77までの各ページを参照して欲しい。



主要交通機関



第3新東京環状線
JRが運営する鉄道路線。別名、第7環状線。電率は10分間隔で運行しており、各駅に停車する。



伊豆箱根バス
環状線の内側を走る路線バス。第3新東京環状線の桃山台駅、小涌谷駅近くに大きなバスターミナルがある。

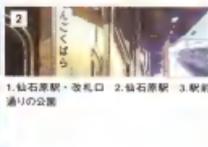


ゲヒルン・インクライン
地上とジオフロントを結ぶ路線。駅は人工進化研究所にある地上駅とジオフロント駅だけ。一般人は利用不可。



駒ヶ岳ロープウェイ
山麓の箱根園から駒ヶ岳の山頂へと続く観光用のロープウェイ。往復運賃は大人で1000円弱。

仙石原駅&駅前通りの公園



1. 仙石原駅・改札口 2. 仙石原駅 3. 駅前通りの公園

1 仙石原駅・改札口

遷都を前にしての急激な人口増加に伴い、新興住宅地として開発が進められている仙石原地区の玄関口。駅周辺には、人工進化研究所勤めの人々とその家族が大勢暮らしている。

2 駅前通りの公園

駅前通りにある緑豊かな公園。朝夕は通勤・通学途中のサラリーマンや親子連れなどで結構な賑わいを見せるが、夜は人通りもまばら。外灯があるとはいえ、夜歩きには向かない。



歩道橋&コンビニエンスストア&通学路 第3 新東京市立第壱中学校



1.学校へ行く道 2.歩道橋 3.コンビニエンスストア 4.東町の通学路 5.十字路 6.別に合わない!

2 歩道橋

駅前通りにある歩道橋。徳さんがちよこちよこ出没するポイント。

3 コンビニエンスストア

歩道橋のすぐそばにあるお店。現在、35周年感謝祭を開催中。

5 十字路

第壱中学校に通う生徒たちが利用する通学路。シンジと綾波が初めて出会った場所でもある。



1.校門前 2.下駄路 3.特別な関係 4.廊下 5.家庭科室 6.図書室 7.教室 8.職員室 9.保健室 10.音楽室 11.屋上 12.校庭 13.テニスコート室 14.プール裏 15.エロスの衝動

6 図書室

「自然淘汰進化論」「突然変異の説を唱える進化論」「ゼロリットル進化論」といった中学生にとっては難解な書物が数多く蔵書されている。そのせいで、生徒たちの利用率は低い。

7 教室

エヴァのパイロット資格を有するチルドレンとその視覚者たちによって構成された特殊学級。クラス担任は、ネルフの作戦本部長でもある葛城ミサトが担当。副担任には定年退職の若教師が雇われている。なお、カリキュラムについては通常の学級と何ら変わらない。

学校周辺



1.コンフォート17マンションの前 2.コンフォート17マンションの前・夜 3.玄関 4.ダイニング 5.居間 6.風呂場 7.得と子 8.妻のあと 9.部屋の前 10.シンジの部屋 11.幼なじみ彼女

1 コンフォート17マンション

駅から程近い場所にある10数階建てのマンション。シンジとその母親である姪夫妻が住んでいる。間取りはゆったりした広さの3LDK。

5 居間

家族全員で集うことが昔無に等しい家庭では、もっぱらシンジの幼なじみであるアスカのくつろぎスペースとなっている。

10 シンジの部屋

6畳の洋間。毎朝、シンジとアスカのバトルが繰り広げられている。



1.菓子パンのカド屋 2.遊歩道 3.ランニングコース 4.芦ノ湖キャンプ村

1 菓子パンのカド屋

校門前にある菓子パンと駄菓子のお店。一番人気は徳さんも絶賛のカレーパン。ほかにも焼きそばパンやコロッケパンといった定番の惣菜パンを始め、シベリアという謎のパンも取り扱っている。

4 芦ノ湖キャンプ村

芦ノ湖の北西部にあるアウトドア用の施設。訪れた人が気軽に利用できるシャワー室などが設置されている。

新吉祥寺駅&駅前広場周辺



1. 新吉祥寺駅 2. 駅前広場 3. ユサワザ 4. 井の頭公園

3 ユサワザ

駅前にある8階建てのホビーデパート。屋上には、ラジコンのサーキット場が常設。「ペンギンフェア」などの催しも開催されている。

4 井の頭公園

正式には井の頭滞潮公園。園内の井の頭池には、恋人同士でボートに乗ると必ず別れるという不吉な言い伝えがある。ただし、真偽は不明。



一丁目 ビッグアップル・ダイナー&ヤマノ楽器



1. 一丁目一番 2. ビッグアップル・ダイナー
3. ヤマノ楽器 4. 一丁目二番
5. 一丁目四番 6. ヤマノ楽器

2 ビッグアップル・ダイナー

リーズナブルな価格設定と質の高い味で、学生や女性に人気があるニューヨークスタイルのレストラン。店のマスターは徳さんと思えます。オススメはペッパーステーキと仔羊のカレー。

6 ヤマノ楽器

一丁目四番にある楽器専門店。3階フロアには、バイオリンやヴィオラ、チェロやコントラバスといった弦楽器が展示されている。

四丁目~五丁目 BOOKSjib.co & ルノール& SAYYOU



1. 四丁目三番 2. BOOKSjib.co 3. 五丁目一
番 4. ルノール 5. 五丁目三番 6. SAYYOU
7. 五丁目四番

2 BOOKSjib.co

ジャンルを問わず豊富な品揃えがウリの本屋さん。店頭にはテクノポリス、ポップコームといった雑誌誌種が、2階フロアの漫画コーナーには、貞○貴○先生の新刊が陳列されている。

5 SAYYOU

五丁目三番にある大型スーパー。食料品を始め、日用雑貨や生活用品など数多くの品を取り扱っており、夕方になると買い物客で賑わう。

二丁目~三丁目 サンロード入り口&ファーストフード店



1. サンロード入り口 [二丁目二番] 2. 二丁目二番 3. ファーストフード店 4. 三丁目二番
5. 三丁目三番 6. 花壇の前

1 サンロード入り口

いくつもの通りが交差し、迷路のようにになっているアーケード街の入り口。休日ともなれば、第3新東京市中から人が集まってくる。

3 ファーストフード店

二丁目三番にあるファーストフードのチェーン店。シンジとカヲルにとっては、思い出のお店でもあるらしい。一押しは、新米産のお米に新鮮な卵の目玉焼き、ジュシーなお肉を使った月見ライスバーガー。

六丁目 アクセサリーの店



1. 六丁目二番 2. 六丁目二番・夜 3. 六丁目三番 4. アクセサリーの店 5. どう、似合う?

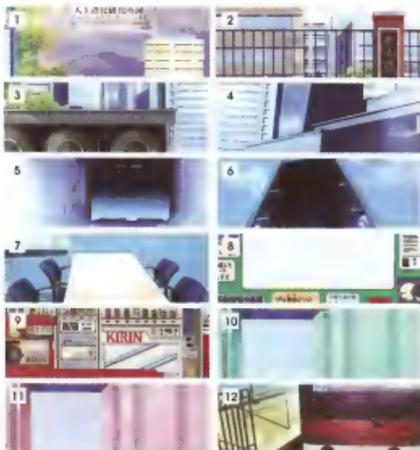
2 六丁目二番・夜

高層ビルが建ち並ぶ区画。昼と夜では感が異なる。

4 アクセサリーの店

六丁目三番にあるアクセサリーのお店。外から見るとガラスのショーケースには、アス力量溢るダイヤのブリルリングや本真珠にシルバーのピアス、それにティアリーナーのティアドロップなどがきれいにディスプレイされている。

人工進化研究所



1.人工進化研究所駅 2.人工進化研究所・正門 3.構内通路 4.中庭 5.カートレイン地上駅 6.巨大格納庫 7.休憩室 8.掲示板 9.自動販売機コーナー 10.男子ロッカールーム 11.女子ロッカールーム 12.インクライン地上駅

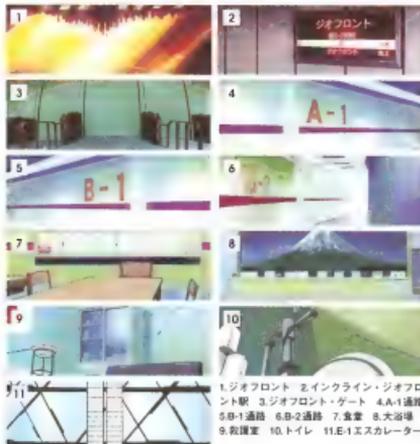
2 人工進化研究所・正門

形而上生物学や遺伝子工学の研究を行っている人工進化研究所の正門。ネルフの表向きの顔ともいえる。第3新東京市の住民の多くは向らかの形でこの研究所に関わっている。

12 インクライン地上駅

ここからモノレールを利用して、ジオフロントにあるネルフ本部へと移動する。所要時間は5分、地下900メートルまで降下する。

ジオフロント&ネルフ本部 L-1フロア



7 食堂

ネルフ職員が利用する食堂。カニ定食やワンタン定食などメニューの品数は豊富で、職員の子供のためにお子様ランチも用意されている。

8 大浴場

食堂と並ぶネルフ職員の憩いの場。湯に鉱泉が混ざっており、筋肉痛やうちみ、神経痛、冷え性、雨こり、動脈硬化に効く。

ネルフ本部 L-2~L-5フロア



10 中央作戦室発令所

ネルフの中核と言える施設。作戦運行時における指揮はすべてここで行なわれる。また、予備施設としてほぼ同等の設備を持った第二発令所も存在している。

20~24 エヴァンゲリオンケイジ

各エヴァの待機スペース。エヴァはアンビリアルブリッジによって固定、高圧を冷却水で満たして格納してある。出撃時は、冷却水を排出、ブリッジの拘束が解除され、機体は発射口へと移送される。

桃源台駅&湖尻バス停周辺



1.桃源台駅 2.桃源台バスターミナル 3.湖尻ゆきバス 4.湖尻バス停 5.湖尻湖畔 6.集光ビルBK17 7.エヴァ山麓地上ゲート 8.エヴァ電力供給コンセント 9.草むら1 10.草むら2 11.草むら3 12.草むら4

湖尻湖畔

火山の火口に雨水が溜まってできた湖。ボートの貸し出しなども行なっている。なお、湖の地下にはジオフロントがある。

集光ビルBK17

湖尻湖畔に造られた、ビル程の巨大な鏡面を有する建造物。地上の太陽光をその巨大な鏡で集め、特殊なガラス管を通して地下のジオフロントに送っている。

箱根園バス停&元箱根バス停&小涌谷駅周辺



駒ヶ岳の山頂

箱根山中第2の高峰。標高は1350m。眼下にある芦ノ湖を一望できる絶景ポイントでもある。

箱根神社

1回100円でおみくじを引ける（おみくじの内容は下記を参照）。ちなみにおみくじは何回でも引くことができる。

大吉	「旅行、楽しみかたあり、特に山々が楽しい」	凶	「災難、難題、苦難」
中吉	「昔も親、北の方角にあり」	大凶	「女性の病、やめは子をと」
小吉	「安寝、出来は無し」		

第26番隧道



1.第26番隧道入り口 2.G26隧道の坑内 3.G26隧道の200m付近 4.G26隧道の300m付近 5.G26隧道の400m付近 6.トンネルの途中 7.行き止まり 8.分岐点を左に入ったところ 9.G26隧道・900m付近 (MM010地点) 10.坑道・MM011地点 11.坑道・MM012地点 12.坑道・MM013地点 13.014分岐点 14.700m地点 15.へビ洞窟 16.800m地点 17.900m地点 18.行き止まり(MM023地点) 19.行き止まり(MM023地点) 20.隧道入り口から約1キロの地点 21.1.1キロ地点 22.建設エレベーター乗降口 23.建設エレベーター 24.地下900mエレベーター出口 25.大塚屋トンネルの分岐点 26.行き止まり (MM031地点) 27.フォッサマグナの分岐点 28.MM032地点

15へビ洞窟

何故か、ガラガラヘビやコブラが生息している。カタルによると、ペットとして飼われていたが逃げ出してしまい、繁殖したものらしい。

28 MM032 地点

奥にある扉の先にはネルフの機密通路がある。中に入った者は……。

第3 新東京駅周辺



1. 第3新東京駅前 2. 第3新東京駅 3. メインストリート 4. 第3新東京のビル街 5. 市街地 6. 大通り 7. 繁華街 8. 映画館 9. カフェテラス 10. 国立音楽劇場 11. ロビー 12. 控え室 13. 劇場 14. ホール裏にて 15. コンサートホール

1 第3新東京駅の前

旧東京駅を模して造られた駅舎。外観には、風合いのある赤レンガが使用されている。

5 市街地

急勾配な坂道。道路表示が英字で統一されている。

8 映画館

繁華街にあるキネマ第三新東京という名の映画館。入り口付近の様子からかなり古い建物だと推察される。

9 カフェテラス

繁華街にある喫茶店。美味しい紅茶を出す。国立音楽劇場隣のシンジたちが利用したお店でもある。

10 国立音楽劇場

シンジたちが参加した第6回アマチュア定期演奏会の会場となった施設。国立というだけあって、収容人数はかなりの多い。また、ロビーには噴水公園が設けられている。

エヴァンゲリオン



1. 1号機 2. 2号機 3. 3号機 4. 4号機 5. 5号機 6. 6号機

使徒迎撃における人類の切り札

正式には、汎用人型決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン。A.T.フィールドと呼ばれる位相空間を展開、中和する能力を持ち、使徒に対抗しうる唯一の兵器となっている。が、基本的に電力供給によってのみ稼働するため、供給用の有線・アンビリカル・ケーブルを切断されると活動時間が5分と極端に狭められてしまう。また、操縦に際しては、チルドレンと呼ばれる適格者、専属パイロットを必要とする。

使徒



1. アダム(?) 2. 使徒、碇真嗣 3. 第3使徒マキエル 4. 第4使徒シャムシエル、第6使徒ガキエル 5. 第5使徒ツミエル 6. 第10使徒サハイエル、第15使徒アラエル

天使の名を冠する人類の敵

天使の名を冠する巨大戦艦兵器群。A.T.フィールドを始め、自己修復機能や稼働時間を無制限にするS2機関など数多くの能力を備えている。ただし、コアと呼ばれる赤い球体を破壊されると活動できなくなってしまう。なお、彼らの目的は、ネルフ本部の最深奥施設・セントラルドグマで十字架に処されている第1使徒アダムと接触することとされている。

鋼鉄のガールフレンド2nd

イベントCG 原画集

PC版のグラフィックをすべてリファインしたことで、さらにハイクオリティな仕上がりとなったPS2版のイベントCG。その基をなすイベント線画も大部分が描き直されている。



後部シートに座るシンジの視線を気にして後ろを振り返るアスカ。すらりとした美脚が眩しい。



プラグスーツ姿のシンジと向き合うユイ。滅多に顔を合わせない、母子の貴重なフーショットだ。



朝寝坊の常習者VS幼なじみ。アスカの手が触れている奇妙な膨らみの正体は……シンジの足？



爽やかな朝の登校風景。全身筋肉痛だったはずのシンジもすっかり元気を取り戻したようだ。



世話女房な一面を見せるアスカに、シンジもまんざらでもない様子。将来を暗示させる光景？



カラルの密着ぶりに困る気味な表情を浮かべるシンジ。麗姿が咲き乱れるアヤしげな雰囲気だ。



カルテ記入用のペンを持ちながら、シンジに視線を向けるリツコ。保健医としての風格十分だ。



胸を揺らす綾波の話題で盛り上がる3人組。トウジに至っては、バトスを放出させる寸前?



体操服で3人組の前に立ちほだかるアスカ。同僚に手を当てた、威風堂々ポーズがよく似合う。



ゲンドウのことを覗きたがる綾波に、虚ろな視線を向けるシンジ。親子戦争勃発の予感……?



高層電車の中ではカラダが密着してしまうのも無理からぬこと。シンジにしてみれば嬉しい計算だ。



「シンジ君のそばがいい」。綾波の意味深な言葉にもシンジの反応は今ひとつ、経験不足?



芝生の上で見つめ合うふたりと
校園で水まきをする水溜りの少女
「なんとなく、いやらしい感じ」



エントリープラグに初乗した
シンジ。内部の精巧な造りにい
たく感心している様子だ。



プラグスーツを腰元まで
下ろし、次号機に胸を押
し当てる美少女の図。サー
ビスサービス♪



セクシーポーズを決める美少女
と野獣のコントラスト。「アス
カの魅力全開! で獲ってね」



気に入っていたイザリングを身
につけることができご機嫌なア
スカ。「かわいいでしょ?」



タンクトップ、ショート
パンツに着替えたアスカ。
自慢のおみ足を強調した
ファッションだ。



両手を後ろにして初号機
の前立つ綾波。背筋が
伸びているせいか、スタ
イルの良さが際立つ。





駅のベンチに座るふたり。
綾波の顔が赤く染まっているのは夕日のせいだが、それとも……。



シンジを巡り電車の中で火花を
散らすふたり。間に立つシンジ
はとうとう……「僕って悲し系」



洞窟探検とチルドレンを結びつ
けて熱井を振るうケンスケ。ミ
リタリーオタクの本領発揮だ。



華扇を背負って愛を語るうカラ
ルとシンジ。恋人同士と言われ
てもまったく違和感がない。



場所が街だろうと洞窟た
らうと、好きな人の前では
総額でいたいのが女心。
アスカだって同じだ。



一向はケンスケを先頭に洞窟の
奥へと進む。トウジが肩をすぼ
めて歩いているのが印象的。



冒険の硬派で熱血漢なトウジの
姿はどこへやら。これにはさす
がのシンジも呆れ顔。



前を歩くメンバーにばれないように手をつなく。アスカも暗闇で少し大胆になっているのかもしれない。



みんなから少し遅れてしまい、ふたりの状態。シンジもどことなく落ち着かぬ様子。



揺れるエレベーターに驚いてシンジに抱きつく綾波。すぐに照れ隠しをするところもまた可愛い。

不意打ちでキス。これがカヲルからの友情の証らしい。シンジも思わず感じてしまったようだ。



着替え中にもかかわらず平然と抱きつくアスカだが、これが逆の立場なら血を見るのは明らか。



リツコが保健室までシンジを呼び寄せるのは、想いを寄せるゲンドウの面影を懐くからか？

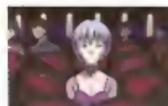




本書を前にして控え室で調弦中のふたり。襟ネクタイにエンピ障がよく似合う。男子にも女装？



シンジとカヲルによる二重奏。綾波群によれば「ザルツブルグの天才少年にみえる」とのこと。



客席が静かなこともあり、シンジならずとも目を向けそうな綾波のドレス姿。ステキだ。



一糸まとわぬ姿で指さかかえらるる綾波。その姿は背中の翼と相まって天使のよう。



カフェテラスでお茶を楽しむ3人。しかし、前後のシーンを回想するとちよつとした違和感が。



天使の翼を広げてシンジを抱きかかえるカヲル。絵になる構図だが、ふたりとも何故ハダカ？



波音を聞きながら、砂浜で寄り添うように立つふたりの姿は、まるで本物の恋人のようだ。

挑発的な視線を向けながら、面白い顔してくれるアスカに、シンジは男としてどう応える？



気心が知れた隣柄だからこそリラックスした光景。アスカが視聴している番組は特撮系？



突然の出来事に驚いたのも束の間、すぐに嬉しとめていっ空闊気に、シンジにしては上出来。



第3新横浜港に向かうべく夜の繁華街を歩くふたり。街のネオンが鏡波のドレス姿によく映える。



窓ガラスの外を見つめながら「堂」について語る鏡波。年齢に似つかない大人びた雰囲気だ。



使徒出現にも動じることなく悠然と構えるゲンドウと冬月。すでに勝利を確信しているようだ。





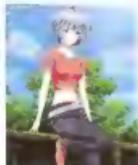
フェラーリ512BBで悪宅
中学校へ。大人の色香を
放つミサトを横目にシン
ジは何を思う……。



ボディラインくっきりの
プラグスーツに、お尻を
突き出すようなポーズ。
ちょっとHな雰囲気。



翻来した使徒に対抗すべ
く、陣頭指揮を執る指揮
官たち。人類の存亡をか
けた戦いが今始まる。



おへそが余裕で見える程
の短いシャツに、タイ
トなジーンズ姿の綾波。
「なんていい奴」



離れ離れになることが決まっ
ても、トウジの買込は平時と変わ
らず活動した模様。「酒席じゃ」



エヴァ全機に向かって出撃命令
を下すゲンドウ。最高司令官と
しての威厳に満ちた態度だ。





素しそうな雰囲気の新ジベアとは対照的に、嫉妬心全開のアスカ。鬼のような形相だ。



テーブルに突っ伏すアスカたちの目を盗んで背後からシンジに抱きつくカヲル。してやったり?



シンジを除くメンバー全員が旗立つ日。それぞれが世界各国にある支部へと派遣されるのだ。



幼なじみからようやく友人の関係になれたふたり。しかし、残された時間はあまりに短くて……。



巨大格納庫の前に立つシンジたち。果たして初号機の強化もふたり乗りは可能なのだろうか?



満月を眺めるふたりの後ろで、三角座りしながら海を見つめる初号機。シュールな光景だ。



夜空に思い浮かべたアスカに、別れの言葉を吐けるシンジ。その瞬間に去来するものは?





感傷に浸っていたシンジに、唇
いかぶさるようにして唇を押し当
てる綾波。実に艶めかしい。



中学時代から数えて十年目。よ
うやく子宝にも恵まれ、満ち足
りな表情を見せる母親のレイ。



あらゆる生物が死滅していく中、
ただひとり生き残ったシンジは、
この世の果てで何を思う？



機密保持のために第式新大塚中
学校へと強制転校させられてし
まったシンジ。チーン……。



ネルフの持つ科学力により、ロ
ボシンジとして蘇生した綾シン
ジ。ニューヒーローの誕生だ。



たった一度の状況判断ミスがそ
の後の人生を大きく狂わせてし
まうことも。豪落の先は……。

攻略DATA

物語はイベント時をのぞいて、MAP移動により進行させることになる。だが、移動は自由度が高いうえにMAPが複雑な場合もあり迷いやすい。そこで、ここでは攻略に必要となるフローチャートを紹介する。

最短フローチャート

ゲーム開始からエンディングまでの最短の道を記したが、このフローチャート。分岐の発生場所、選択したルートで何が起こるかなどを確認して、思い通りに進んで欲しい。

■チャートの見方

左の欄は移動すべき場所、右の欄には気を付けたい注意事項とコマンドで発生させられる、または自動発生するイベントを表示。

- 各章の登場地点
- 扉ノボりの移動地点
- 分岐地点
- 次ページへ続く地点



教室に行くときから人の気配が。ここで「入ってる」を隠すとゲームオーバーだ。

1章 迷ったときエヴァンゲリオン	
コンフォート17マンションの道	
実室	
ダイニング	
廊下	command 話す 長さん→? 聞いてみる(思と?) or 聞いて聞いては聞きななでやめをきく……
教室へ	
2章 迷ったときエヴァンゲリオン	
コンフォート17マンションの道	自動発生・結城しほと少女
コンフォート17マンションの道	
東町の高等学校	自動発生・学校へ行く
十字路	自動発生・壁に含むわいり
校門前	
校庭	
下駄箱	command 話す アスカ(特別出演?)
廊下	
保健科室	command 話す ヒカリ
図書室	command 話す 美咲
保健室	command 話す ミサト
保健室	command 話す リツコ
音楽室	command 話す かがみ(音楽) or かがみ(美術)
廊下	command 話す トウジ
教室	自動発生・史上最強の転校生
廊下	
図書室	command 話す ミサト
保健室	自動発生・身体検査とカウンセリング
廊下	
教室	command 入ってるゲームオーバー or やめておく
下駄箱	command 話す トウジ
廊下	
図書室	or 美咲
廊下	
下駄箱	
校庭	自動発生・アスカの体検査
テニスコート裏	自動発生・通学し者の便所
校庭	
プール裏	自動発生・教えて……書いてよ!
廊上	
廊下	
保健科室	command 話す ヒカリ
図書室	command 話す 美咲
保健室	command 話す 結城
プール裏	command 話す カヲル

3章 迷ったとき

アスカと行く	結城と行く	カヲル君と行く
廊下	下駄箱	プール裏
下駄箱	校庭	自動発生・エロスの乗物
校庭	校門前	校門前
校門前	十字路	十字路
黒アジノの道	東町の高等学校	東町の高等学校
野飯広場	保健室	保健室
ユメザカ	野飯通りの公園	野飯通りの公園
自動発生コーナー	白石沢駅・改札口	白石沢駅・改札口
保健室	人工衛星研究所・正門	野飯広場
中庭	教室内廊下	二丁目二樓
オンライン機上座	中庭	一丁目二樓または二丁目二樓

中庭	
園内演習	
巨大植物園	
園内演習	
中庭	
インクライン地上駅	自動発生:グヒルソ・インクライン
ジオフロント・ゲート	
A-1通路	
E-1エスカレーター	
C-1通路	
L-1エレベーターホール	
V-1エレベーター	
L-5エレベーターホール	
V-1エレベーター	
L-4エレベーターホール	
廊下	
L-4エレベーターホール	
V-1エレベーター	
L-1エレベーターホール	
C-2通路	
花壇の壁	
三丁目三番	
四丁目三番	
五丁目三番	
六丁目三番	
アウゼサリーの店	自動発生:アスカとイザリナ
白石神社:改札口	
駅前通りの公園	
歩道橋	
駅前の漢字図	
コンフォート17マンション(舞臺)	自動発生:アドベンチャーゲーム

第1章へ

休憩室	
自動発生機コーナー	
男子ロッカールーム	自動発生:移動 廊下 男子ロッカールームor女子ロッカールーム(ゲームオーバー) 自動発生:みんなの見る姿
自動発生機コーナー	
休憩室	
中庭	
インクライン地上駅	
中庭	
園内演習	
巨大植物園	
園内演習	
中庭	
インクライン地上駅	自動発生:グヒルソ・インクライン
ジオフロント・ゲート	
A-1通路	
E-1エスカレーター	
C-1通路	
L-1エレベーターホール	
V-1エレベーター	
L-5エレベーターホール	
V-1エレベーター	
L-4エレベーターホール	
廊下	
L-4エレベーターホール	
V-1エレベーター	
L-1エレベーターホール	
C-2通路	

自動発生:先送りにすべき情報
父に隠しかけてある(ゲームオーバー)の解つてエアロックに落ちた人た
ちを夢中にさせる物の正体

第2章へ

一丁目一番または三丁目二番	
二丁目演習	
キマズ家前	自動発生:シンジと真でたい
人工進化研究所:正門	
園内演習	
中庭	
休憩室	
自動発生機コーナー	
男子ロッカールーム	自動発生:園内のロッカールーム
自動発生機コーナー	
休憩室	
中庭	
インクライン地上駅	
中庭	
園内演習	
巨大植物園	
園内演習	
中庭	
インクライン地上駅	自動発生:グヒルソ・インクライン
ジオフロント・ゲート	
A-1通路	
E-1エスカレーター	
C-1通路	
L-1エレベーターホール	
V-1エレベーター	
L-4エレベーターホール	
廊下	
L-4エレベーターホール	
V-1エレベーター	
L-1エレベーターホール	
C-2通路	

自動発生:先送りにすべき情報
父に隠しかけてある(ゲームオーバー)の解つてエアロックに落ちた人
たちを夢中にさせる物の正体

第3章へ



第3章では教室に入ることができるが、今回は扉にカギがかかって入れない。

第4章 シンジと真だけの有様	
廊下	
下駄箱	
校庭	
テニスコート裏	
校庭	
下駄箱	
廊下	
音楽室	※書替え
廊下	
下駄箱	
校庭	自動発生:真の辺りがキツイカに corneo 移動 ランニングコース へ出る 自動発生:シンジ、隠れる
廊下	
図書室	アスカ
教室	トウジ
音楽室	カヲル
廊上	綾波
下駄箱	
校門前	
十字路	
駅前の漢字図	
歩道橋	
駅前通りの公園	
白石神社:改札口	
白石神社	



入る前に二丁目三番を10回通ると、隣さんに連れて行かれる隠しイベントが発生。

道草している……

河原に向かう途中、以下に紹介した通り行動すると、カヲルが現れて強制的に洞窟前へと連れて行かれる隠しイベントが発生する。

1. 新ヶ岳山頂で2回「話す」
2. マヤとの会談後、その場をはなれる
3. もう一度山頂へ行くとかابل登場



シンジのことなら行動から心の中までお見通しなカヲル。

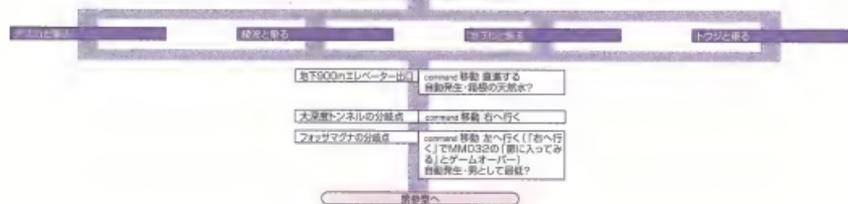


ここでは、乗客車と一緒に研究所に行った相手をふたりきりになるのだ。

新吉祥寺駅	
駅前広場	
二丁目三番	
駅前広場	
新吉祥寺駅	
池原広場	
池原バスターミナル	
洞窟/スネ	
洞窟湖畔	
東京ビルBK17	
エヴァ電力供給コンセント	
電柱5×4	
第55番乗降入り口	自動発生・洞窟湖畔側
コンコト17マンツクンコト1	
洞窟の遺光景	
洞窟前川の公園	
橋石橋脚・鉄軌口	
洞窟台駅	
洞窟バスターミナル	
洞窟/スネ	※指針先へ行ける
洞窟湖畔	
東京ビルBK17	
エヴァ電力供給コンセント	
電柱5×4	
第55番乗降入り口	自動発生・洞窟湖畔側
駅前	command 移動 洞窟内へ
200m付近	command 移動 橋へ
300m付近	command 移動 橋へ
400m付近	command 移動 左へ進む
分岐点を左に入ったところ	command 移動 左へ進む

500m付近	command 移動 石へ進む	500m付近	command 移動 洞窟する
MMO13地点	command 移動 道なりに進む	MMO11地点	command 移動 洞窟する
		MMO12地点	command 移動 道なりに進む
D14分岐点	command 移動 洞窟する	O14分岐点	command 移動 左へ進む
700m付近	command 移動 畜産する(「石の洞窟へ進む」とへばに連携)		
800m地点	command 移動 畜産する 自動発生・種族でふたむきセロ・アスカ・綾波・カヲル		
800m地点	command 移動 左へ		
洞窟入り口から約1400m地点	command 移動 右へ進む		
1.1千口駅	command 移動 先へ進む		
洞窟エレベーター乗降口	command 話す ケンスケ command 移動		

研究所出現



隠しイベント「業界の思念」を発生させるために

そのまま新吉祥寺駅に入ると洞窟台駅に向かってしまい、新吉祥寺には戻れなくなる。その前に新吉祥寺駅で以下に紹介するA~Dのイベントを発生させておこう。すると、のちに行くことになる第25番隧道の洞窟内で「業界の思念」イベントが発生するのだ。

- A: 六丁目三番・アクセサリーの店で加時とマヤを日曜
- B: 五丁目一番・ルノールで日向の作っているパンコンが完成
- C: BOOKSloopで冬月を見つけ、その後四丁目三番で得勝の「37級」の報酬を稼ぐ
- D: コ★ザワヤカ井の洞窟前でトワジが合計9回以上トワジに行く



NO.	章	ルート	イベント名	イベント発生条件
4-1	第1章	共通	不淨 [?] を期待	3-9「アスカの体操着なんか」を見る
4-2	第1章	共通	美人に、ハダカ見られた……	4-1「不淨(?) な関係」を見たあと、「ランニングコース」を選択する
4-3	第1章	共通	美人は、ハダカ見られた……	4-2「美人に、ハダカ見られた……」を見る
4-4	第1章	共通	測定採検の誤	新吉祥寺の一日目一番かきビッグアップル・ダイナーに移動する
4-5	第1章	共通	こんな昼、どうかな〜	混雑バス停の先にある第26番線入り口を見学する
4-6	第1章	共通	隧道内の様子	測定採検の当日に第26番線入り口の先にある坑内「隧道内へ」を選択する
4-7	第1章	共通	隧道でふたりきり・綾波	駅舎で「綾波と行く」を選択。800m付近で「直進する」を選択する
4-8	第1章	共通	隧道でふたりきり・アスカ	駅舎で「アスカと行く」を選択。800m付近で「直進する」を選択する
4-9	第1章	共通	隧道でふたりきり・カヲル	駅舎で「カヲルと行く」を選択。800m付近で「直進する」を選択する



NO.	章	ルート	イベント名	イベント発生条件
5-1	第1章	共通	乗っ、抱きつかれた	総務エレベーター乗降口で「綾波と乗る」を選択する
5-2	第1章	共通	女の子とすること……	総務エレベーター乗降口で「アスカと乗る」を選択する
5-3	第1章	共通	釣魚着、好きよ……	総務エレベーター乗降口で「トウワと乗る」を選択する
5-4	第1章	共通	許してくれよ、ヒカリ	5-3「釣魚着、好きよ……」を見る
5-5	第1章	共通	箱桶の天幕水?	地下900mエレベーター出口で「直進する」を選択する
5-6	第1章	共通	母、不意につき	特になし(開始直後に発生)
5-7	第1章	共通	寝さぬケンケン	アスカ(家庭科室)、ケンケン(教室)、老教師(職員室)、綾波(音楽室)、ヒカリ(テニスコート裏)と会話をしたあと、教室に移動する
5-8	第1章	共通	肩こりリリコ	5-7「寝さぬケンケン」を見る
5-9	第1章	アスカ	他二章は別しようかな?	教室もしくは音楽室で「一日、アスカと付き合う」を選択する



NO.	章	ルート	イベント名	イベント発生条件
6-1	第1章	アスカ	ムムムムム、ムスイ	自宅で部屋の前かダイニングに移動したあと、居間に行く
6-2	第1章	アスカ	私も誰か愛でてもらいたい	6-1「ムムムムム、ムスイ」を見る
6-3	第1章	二重章		第3章新東京のメインストリート、大通りの先にある国立音楽劇場の控室に入る
6-4	第1章	綾波・カヲル	6-3「二重章」を見る	6-3「二重章」を見る
6-5	第1章	綾波・カヲル	演奏、感動した	6-4「あの感動で書き止められた……」を見る
6-6	第1章	綾波・カヲル	願いを叶えてあげよう	国立音楽劇場から大通り、警察署を過ぎてカフェテラスに入る
6-7	第1章	カヲル	傷つけない天使	カフェテラスで「カヲルとふたりになる」を選択する
6-8	第1章	綾波	生きている感じ	カフェテラスで「綾波とふたりになる」を選択する
6-9	第1章	綾波	新しい自分	6-8「生きている感じ」を見る



NO.	章	ルート	イベント名	イベント発生条件
7-1	第1章	アスカ	アスカと水着とお風呂	自宅の居間で「アスカと一緒に過ごす」を選択する
7-2	第1章	アスカ	お水やみなさい……	7-1「アスカとお水とお風呂」を見る
7-3	第1章	綾波	6-7「お願いを叶えてあげよう」	「綾波の待つ、駅へ行く」を選択後、仙石原駅・丸根口に移動する
7-4	第1章	綾波	夏の思い出が欲しい	仙石原駅・丸根口で「このまま綾波と共立」を選択する
7-5	第1章	綾波	同じ気持ち	7-4「夏の思い出が欲しい」を見る
7-6	第1章	共通	使徒、襲来	特になし(開始直後に発生)
7-7	第1章	アスカ	とりやま! 巴投げ!	L-4の特務用個室で「アスカに付いていく」を選択後、氏号機ケイジに移動する
7-8	第1章	綾波	みんな行っちゃった	L-4の特務用個室で「綾波の味方をする」を選択する
7-9	第1章	アスカ	葛城先生……	7-8「とりやま! 巴投げ!」を見たあと、V-1エレベータに移動、ミサトとともに新帝中学校に到着する



NO.	章	ルート	イベント名	イベント発生条件
8-1	第1章	アスカ	ロータス・エランとフェラーリ512BB	ヒカリ(家庭科室)、カヲル(音楽室)、トウワ(屋上)、ケンケン(校庭orテニスコート裏orプール裏)と会話したあと、教室に移動する
8-2	第1章	アスカ	大人の関係	8-1「ロータス・エランとフェラーリ512BB」を見る
8-3	第1章	綾波	綾波のおへそ	7-8「みんな行っちゃった」を見たあと、L-4エレベーターホールからL-1のC-1通路に移動する
8-4	第1章	共通	エヴァ機出動!	特になし(ゲンドウの出発命令後に発生)
8-5	最終章	共通	エヴァ機と使徒撃退記念式典	特になし(開始直後に発生)
8-6	最終章	共通	チェックタイム	8-5「エヴァ機と使徒撃退記念式典」を見る
8-7	最終章	アスカ	思い出は星の数	人工進化研究所上の高台で「アスカとこの場に残る」を選択する
8-8	最終章	綾波	綾波! 行こう!	人工進化研究所上の高台で「綾波を連れて立ち去る」を選択する
8-9	最終章	綾波	ふたりきりになれるところへ	8-8「綾波! 行こう!」を見る



NO.	章	ルート	イベント名	イベント発生条件
9-1	最終章	綾波	さよなら……、アスカ	8-9「ふたりきりになれるところへ」を見る
9-2	最終章	綾波	私が初めてあげる	9-1「さよなら……アスカ」を見る
9-3	最終章	綾波	新たな扉	9-2「私が初めてあげる」を見る
9-4	第1章	共通	強制脱走(ゲームオーバー)	第26番線内、MM032で「扉に入ってみる」を選択する
9-5	第1章	綾波	EVA機と使徒撃退記念式典	人工進化研究所で最終的に女子ロッカー・ルームに移動する
9-6	第1章	アスカ	もう寝ないで(ゲームオーバー)	一日、アスカと付き合う」を選択、自宅の部屋の前で「部屋に入る」を選択する
9-7	第1章	共通	学校で遊ぼう(ゲームオーバー)	新帝中学校の職員室でミサトと「話す」、「教室に入ってみる」を選択する
9-8	第1章 or 第1章	-	漂流者(ゲームオーバー)	9-6「狂った星屋の扉」、9-6「もう寝ないで」、9-7「学校での待ち」を見る
9-9	第1章	アスカ	ロビンズ(ゲームオーバー)	L-4の特務用個室で「アスカに付いていく」を選択後、氏号機ケイジに立ち寄りずし、C-2通路の先にある加特のスイカ畑に移動する

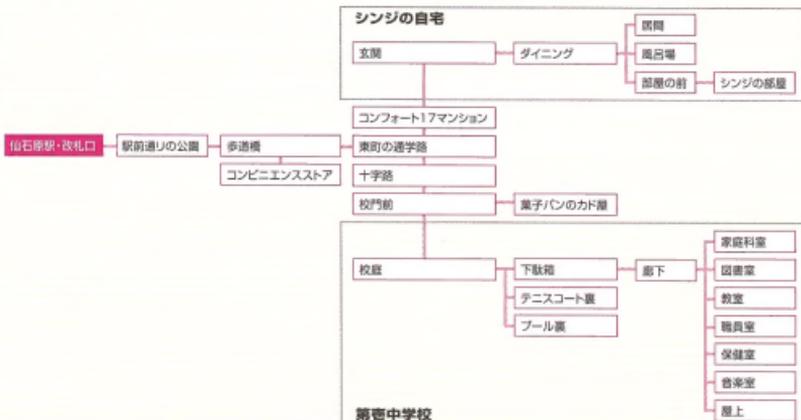
全MAP DATA

以下は各エリアの構成図である。
現在地の確認や目的地の把握に
際して活用してもらいたい。



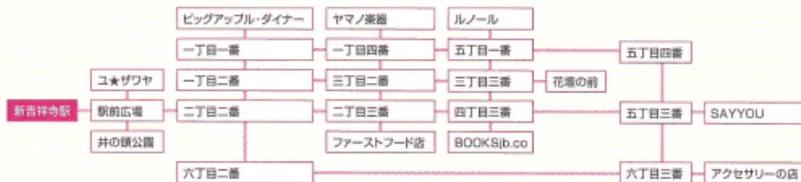
仙石原駅近郊

シンジの自宅や第壹中学校がある、物語の起点となるエリア。シンジの自宅と第壹中学校については、施設内も細かく区分されているので、きちんと認識しておきたい。



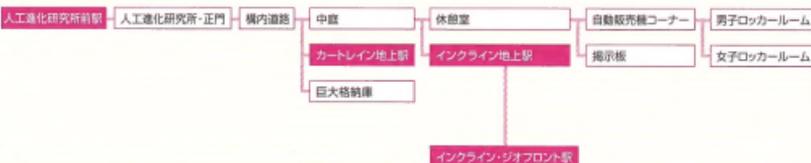
新吉祥寺・サンロード

迷路のように入り組んでいる新吉祥寺の商店街。
ユ★ザワヤやマノ楽器など、イベント発生
箇所が多く点在している。また關しイベント
(P90参照) もここを中心に発生する。



人工進化研究所

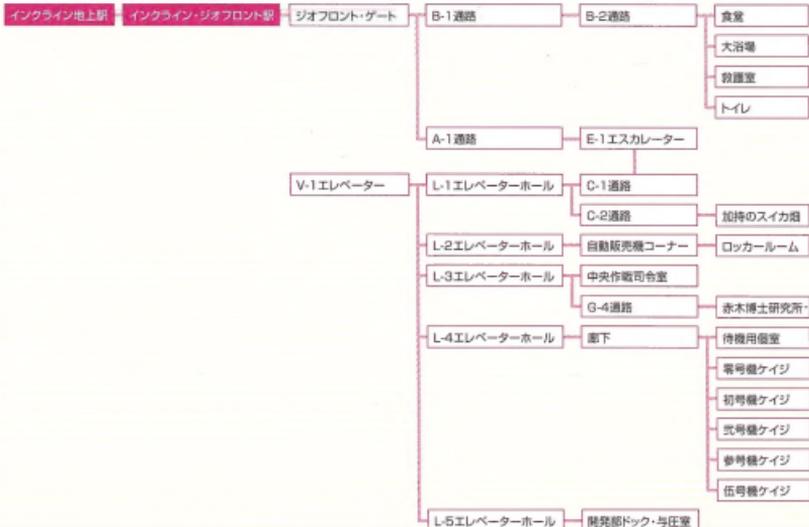
ジオフロントと地上を繋いでいるインクライン
があり、ここからネルフ本部へと移動すること
になる。また、内部の移動に際しては、行っ
たり来たりが多くなるため迷いやすい。





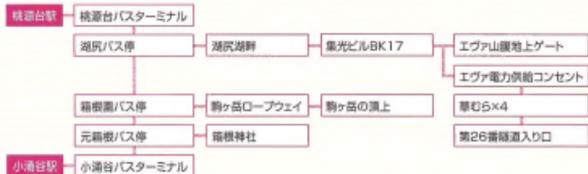
ジオフロント・ネルフ本部

ジオフロント内にある使徒迎撃用の塔では、各階層に通じるエレベーターを利用して歩き回ることになる。内部を移動するタイミングは2回。第3章、第6章となる。



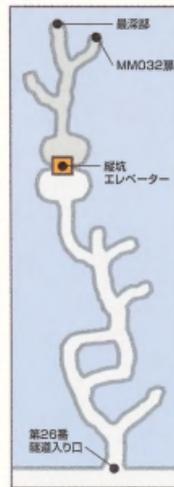
桃源台駅 ～小涌谷駅

第3章で訪れる場所。ここから第26番隧道へと向かうことになる。なお、初期訪問の時点では桃源台～箱根園区間のバスは不通。



第26番 隧道

MM032の扉を開くと、ゲームオーバーになるので要注意。



第3新東京 駅近郊

第3章で綾波・カヲルルートを選択した場合のみ行くことが可能。都心だけに街の規模そのものは大きい。行ける場所は少ない。



しんせいき

新世紀エヴァンゲリオン

こうてつ

鋼鉄のガールフレンド2nd

セカンド

こうしき

公式ビジュアルブック

2005年2月4日 初版発行

編集 ● 加藤寛之 (株式会社角川書店)
藤丸 謹 (株式会社角川書店)

制作 ● 木野友一 (STUDIO-M)
畑中 央 (STUDIO-M)
松平 与 (STUDIO-M)

協力 ● 佐藤 卓 (STUDIO-M)

特別協力 ● 曲輪ぬい (STUDIO-M)
木野友一 (STUDIO-M)
柴原みちる (STUDIO-M)
大塚 敏 (ウィンベル)

デザイン ● 佐久間利佳 (有限会社佐久総合企画)

協力 ● 株式会社ガイナックス
株式会社ブロッコリー

発行人 井上伸一郎
発行所 株式会社角川書店
〒102-8177 東京都千代田区富士見 2-13-3
電話 営業 03-3238-8530
編集 03-3238-8661

振替 00130-9-195208

印刷・製本 共同印刷株式会社



禁断断転載・複製

落丁・乱丁本はご面倒でも小社受注センターへお問い合わせください。

送料は小社負担でお取り替えいたします。

ゲーム内容に関するお問い合わせは一切お答えできません。

特に電話でのお問い合わせはご遠慮ください。

Printed in Japan
ISBN4-04-707175-7 C0076

© GAINAX/Project Eva. ・テレビ東京
© 2003 GAINAX
© BROCCOLI

